

Symantec NetBackup™ 7.5.0.6 リリースノート

NetBackup 7.5.0.6

メンテナンスリリースの更新



Symantec NetBackup™ 7.5.0.6 リリースノート

このマニュアルで説明するソフトウェアは、使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができます。

マニュアルバージョン: 7.5.0.6

法的通知と登録商標

Copyright © 2013 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec ロゴ、チェックマークロゴ、NetBackup は Symantec Corporation またはその関連会社の、米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

このシマンテック製品には、サードパーティ(「サードパーティプログラム」)の所有物であることを示す必要があるサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。サードパーティプログラムについて詳しくは、この文書のサードパーティの商標登録の付属資料、またはこのシマンテック製品に含まれる **TRIP ReadMe File** を参照してください。

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Symantec Corporation からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

Symantec Corporation が提供する技術文書は Symantec Corporation の著作物であり、Symantec Corporation が保有するものです。保証の免責: 技術文書は現状有姿のままで提供され、Symantec Corporation はその正確性や使用について何ら保証いたしません。技術文書またはこれに記載される情報はお客様の責任にてご使用ください。本書には、技術的な誤りやその他不正確な点を含んでいる可能性があります。Symantec は事前の通知なく本書を変更する権利を留保します。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR 52.227-19 「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202 「Rights in Commercial Computer Software or Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

弊社製品に関して、当資料で明示的に禁止、あるいは否定されていない利用形態およびシステム構成などについて、これを包括的かつ暗黙的に保証するものではありません。また、弊社製品が稼動するシステムの整合性や処理性能に関しても、これを暗黙的に保証するものではありません。

これらの保証がない状況で、弊社製品の導入、稼動、展開した結果として直接的、あるいは間接的に発生した損害等についてこれが補償されることはありません。製品の導入、稼動、展開にあたっては、お客様の利用目的に合致することを事前に十分に検証および確認いただく前提で、計画および準備をお願いします。

Symantec Corporation
350 Ellis Street
Mountain View, CA 94043
<http://www.symantec.com>

第 1 章	新機能および拡張機能	7
	NetBackup 7.5.0.6 の新機能および拡張機能について	7
	NetBackup 7.5.0.6 の新機能	7
	バックアップ、アーカイブ、リストアの日付と時刻の範囲オプション	8
	NetBackup 7.5.0.6 の新しい拡張機能およびサポート	8
第 2 章	プラットフォームの互換性	11
	NetBackup 7.5.0.x のリリース互換性について	11
	ソフトウェアのリリース形式について	11
	NetBackup 7.5 の互換性について	12
	NetBackup 互換性リスト	14
第 3 章	製品の依存関係	17
	オペレーティングシステムのパッチおよびアップグレード	17
第 4 章	操作上の注意事項	27
	NetBackup 7.5.0.6 の操作上の注意事項について	27
	インストールおよびアップグレードの注意事項	28
	NetBackup 7.5.0.6 の一般的な注意事項	30
	Bare Metal Restore の注意事項	32
	クラウドストレージの注意事項	33
	データベースとアプリケーションエージェントの注意事項	33
	Exchange 操作用の最小の NetBackup アカウントの作成 (Exchange 2010 以降)	35
	重複排除の注意事項	37
	MSDP および PureDisk の重複排除ソリューションのアップグレードに ついて	37
	OpsCenter の注意事項	40
	NetBackup Search の注意事項	43
	Search の NetBackup 7.5.0.x へのアップグレードについて	43
	仮想化の注意事項	44

第 5 章	End-of-life のお知らせ	47
	これからの NetBackup End-of-Life についてのお知らせ	47
付録 A	NetBackup 7.5.0.6 のリリース内容について	49
	NetBackup のリリース内容について	49
	リリース内容の表記規則について	49
	NetBackup 7.5.0.6 のリリース内容	50
	NetBackup 7.5.0.6 Emergency Engineering Binary (EEB) のリスト	53

新機能および拡張機能

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 7.5.0.6 の新機能および拡張機能について](#)
- [NetBackup 7.5.0.6 の新機能](#)
- [NetBackup 7.5.0.6 の新しい拡張機能およびサポート](#)

NetBackup 7.5.0.6 の新機能および拡張機能について

少数の新機能に加えて、NetBackup 7.5.0.6 では、以前の NetBackup のリリースにおける問題点の多くが改善され、機能も強化されています。NetBackup のこのリリースの新機能と拡張機能についての情報は、本章の次の項で確認できます。

このリリースで、NetBackup のいくつかの既知の問題に修正が加えられました。これらの問題の多くは Titan または Salesforce.com (SFDC) のケースの形で文書化されたユーザー固有の問題に関係しています。このリリースで加えられた修正の多くは個別のエンジニアリングバイナリおよびエンジニアリングバンドル (EEB) として利用可能です。これらの EEB は、NetBackup の前のバージョンで特定の顧客の問題に対処するために作成されました。このメンテナンスリリースドキュメントには、それらのエンジニアリングバイナリおよびバンドルがリストされています。

p.50 の「[NetBackup 7.5.0.6 のリリース内容](#)」を参照してください。

p.53 の「[NetBackup 7.5.0.6 Emergency Engineering Binary \(EEB\) のリスト](#)」を参照してください。

NetBackup 7.5.0.6 の新機能

次の項で、NetBackup 7.5.0.6 のリリースに含まれる新しい機能について詳しく説明します。

バックアップ、アーカイブ、リストアの日付と時刻の範囲オプション

新しい日付と時刻の範囲機能がバックアップ、アーカイブ、リストアのインターフェースの [NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)] ダイアログボックスに追加されました。この機能を使って、バックアップイメージのために正確な日付と時刻の範囲をフィルタリングできます。デフォルト設定は [利用可能な最古 (Oldest available)] および [利用可能な最新 (Newest available)] に設定されます。デフォルト設定にチェックマークを付けたままだと、リストアに利用可能なすべてのイメージが表示されます。

日付と時刻の範囲を指定すると、リストアに利用可能なバックアップイメージの取得にかかる時間を減らすことができます。次の説明は、必要に合わせて日付と時刻の範囲をカスタマイズする方法です。

開始: リストアに利用可能なバックアップイメージをどの時点からフィルタリングするかを選択します。最も古いイメージまで、すべてのイメージを含めてフィルタリングする必要がある場合、[利用可能な最古 (Oldest available)] にチェックマークを付けたままにします。

目的: リストアに利用可能なバックアップイメージをどの時点までフィルタリングするかを選択します。最も新しいイメージまでフィルタリングする必要がある場合、[利用可能な最新 (Newest available)] にチェックマークを付けたままにします。

NetBackup 7.5.0.6 の新しい拡張機能およびサポート

NetBackup 7.5.0.6 リリースでは、次の新しい拡張機能およびサポートを提供します。

- 次のオペレーティングシステムに対するプラットフォームサポート:
 - Windows 8 クライアント (x86-64 のみ)
 - Windows Server 2012 クライアント

メモ: NetBackup クライアントソフトウェアは、特別なフルインストールパッケージを使用した場合のみ Windows 8/Server 2012 にインストールすることができます。

p.28 の「[インストールおよびアップグレードの注意事項](#)」を参照してください。

- 次のデータベースおよびアプリケーションエージェントに対するサポート:
 - SAP HANA
NetBackup for SAP データベースエージェントは、SAP HANA 用の BACKINT インターフェースを実装し、NetBackup のバックアップおよびリカバリ管理機能を統合します。エージェントは HANA アプライアンスの単一および複数ノードの配置をサポートします。

SAP HANA エージェントの実装は HANA バージョン 5、リビジョン 46 以上を持つすべてのベンダーの HANA アプライアンスで有効です。

p.33 の「データベースとアプリケーションエージェントの注意事項」を参照してください。

- DB2 10.1 は、今回のリリースでサポートされており、スナップショットとの互換性もあります。DB2 のスナップショットとの互換性の最新情報については、シマンテック社のサポート Web サイトの『NetBackup 7.x Snapshot Client 互換性リスト』を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH59978>

- Exchange 2013 (データベースのみ)
個別リカバリテクノロジー (GRT) とオフホストバックアップは、このリリースではサポートされません。

メモ: Symantec NetBackup では、最新のソフトウェアとバグ修正を確保するために Exchange 2013 の累積更新プログラム 1 をインストールすることを推奨します。

- SharePoint 2013 (データベースのみ)
個別リカバリテクノロジー (GRT) は、このリリースではサポートされません。
 - Windows 2008 R2 と Windows 2012 での Exchange 2010 SP3。
このリリースでは、Exchange 2010 または 2013 での NetBackup の操作のために、Exchange 管理者権限ではなく、ローカルの管理者権限がある最小のメールボックスアカウントを使用できるようになりました。
- p.35 の「Exchange 操作の最小の NetBackup アカウントの作成 (Exchange 2010 以降)」を参照してください。

- 次の仮想化テクノロジーに対するサポート:

- Windows Server 2012 用の Hyper-V。

メモ: Windows Server 2012 用の Hyper-V は制限付きでサポートされます。

p.44 の「仮想化の注意事項」を参照してください。

- その他の新しい拡張機能とサポート:

- NetBackup は、PureDisk 重複排除オプション (PDDO) とより良く統合するように拡張されています。これらの拡張機能には次が含まれます。

- PureDisk ストレージプールが異常な状態に陥ったとき、NetBackup のエラーログに異常な状態イベントが書き込まれます。

- PDDO->PDDO の自動イメージレプリケーションおよび最適化複製のジョブスケジュールも向上しました。ソースストレージプールが過負荷でなくなるまでジョブが開始することはありません。

プラットフォームの互換性

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 7.5.0.x のリリース互換性について](#)
- [NetBackup 互換性リスト](#)

NetBackup 7.5.0.x のリリース互換性について

このリリースでは、『[NetBackup 7.5 リリースノート UNIX、Windows および Linux](#)』に記載されているプラットフォームとOSビットがサポートされます。次のセクションはシマンテック社のサポート Web サイトで入手可能な最新の互換性リストを見つける方法を記述します。

プラットフォームの互換性について詳しくは、シマンテック社のサポート Web サイトで次の文書を参照してください。

- 『[NetBackup 7.5 リリースノート UNIX、Windows および Linux](#)』
<http://www.symantec.com/docs/DOC5041>
- 『[NetBackup Enterprise Server and Server 7.x OS Software Compatibility List](#)』
<http://www.symantec.com/docs/TECH59978>

ソフトウェアのリリース形式について

Symantec NetBackup は、お客様のニーズに対応するために、さまざまなレベルのリリースを提供できるポリシーを維持しています。次のリストで、各種のリリース形式と、それぞれの形式に関連付けられるバージョンの番号付けスキームを定義します。これらのリリース形式と番号付けスキームは、**NetBackup** 製品や **NetBackup** アプライアンス製品によって使用されます。

- メジャーリリースとは、一連のリリースの最初になるものです。この形式のリリースには、新機能、新たなサポート対象のプラットフォーム、および最新の製品マニュアル一式が含まれます。

- マイナーリリースとはメジャーリリースに続く単一ドットのリリースで、たとえば 2.5 や 7.5 などです。このリリース形式には、メジャーリリースと同じ要件の多くが含まれます。少数の新機能と拡張機能、プラットフォームへの対応強化、更新されたマニュアル式が含まれます。
- ソフトウェアリリース更新とは二重ドットのリリースで、たとえば 2.5.1 や 7.5.x などです。このリリース形式にはわずかな新機能と拡張機能、そして多くの製品修正プログラムが含まれることがあります。新機能や拡張機能に適用されるマニュアルのみが更新され、再発行されます。
- メンテナンスリリース更新とは三重ドットのリリースで、たとえば 2.5.0.x や 7.5.0.2 などです。このリリース形式は主に、メジャーリリース、マイナーリリース、ソフトウェア更新リリースの問題に対処するために開発されたいくつかの修正プログラムで構成されます。また、このリリース形式には少数の新機能、拡張機能、プラットフォームまたはアプリケーションへの対応強化が含まれることもあります。提供されるマニュアルは、シマンテック社のサポート Web サイトから入手可能なオンラインの **Readme** とリリースノートのみです。

NetBackup 7.5 の互換性について

Symantec NetBackup は、環境内のマスターサーバーのバージョンレベルが同じ環境内のメディアサーバーやクライアントのバージョンレベルと同等以上であるよう常に維持しています。NetBackup と NetBackup アプライアンスでは、マスターサーバーのバージョンレベルが 7.5 の環境内にあるメディアサーバーまたはクライアントに、メンテナンスリリース (7.5.0.1 など) を適用できます。これと同じシナリオを、マイナーリリースやリリース更新でリリースされたメンテナンスリリースに適用できます。

NetBackup と NetBackup アプライアンスの互換性について詳しくは、シマンテック社のサポート Web サイトで『NetBackup 5xxx Appliance Compatibility』の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH136970>

Symantec NetBackup では、マイナーリリースやソフトウェアのリリース更新が親サーバーより高いバージョンレベルであるシナリオをサポートしません。たとえば、次の例が適用されます。

- マスターサーバーが 7.5 の場合、メディアサーバーとクライアントは 7.5 より大きい単一ドットのバージョンレベル (7.6 など) にはなりません。
- マスターサーバーが 7.5 の場合、メディアサーバーとクライアントは 7.5 より大きい二重ドットのバージョンレベル (7.5.x など) にはなりません。
- マスターサーバーが 7.5.1 (このバージョンは例のみで、存在しません) の場合、メディアサーバーとクライアントは 7.5.1 より大きい二重ドットのバージョンレベル (7.5.2 など) にはなりません。

次の表は、現在の NetBackup 7.5 製品ラインでサポートされる各種の互換性スキームを示したものです。

表 2-1 NetBackup 7.5 製品ラインのリリース互換性

NetBackup マスターサーバー	NetBackup メディアサーバー	NetBackup クライアント
7.5	7.0	7.0
7.5	7.0.1	7.0、7.0.1
7.5	7.0.2	7.0、7.0.1、7.0.2
7.5	7.1	7.0、7.0.x、7.1、7.1.0.x
7.5	7.1.0.1	7.0、7.0.x、7.1、7.1.0.x
7.5	7.1.0.2	7.0、7.0.x、7.1、7.1.0.x
7.5	7.1.0.3	7.0、7.0.x、7.1、7.1.0.x
7.5	7.1.0.4	7.0、7.0.x、7.1、7.1.0.x
7.5	7.5	7.0、7.0.x、7.1、7.1.0.x、7.5
7.5	7.5.0.1	7.0、7.0.x、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x
7.5	7.5.0.2	注意: NetBackup 7.5.0.2 は、NetBackup アプライアンス 2.5 ソフトウェアリリースが基づいているバージョンです。NetBackup 7.5.0.2 は NetBackup のスタンドアロンバージョンではありません。
7.5	7.5.0.3	7.0、7.0.x、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x
7.5	7.5.0.4	7.0、7.0.x、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x
7.5	7.5.0.5	7.0、7.0.x、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x
7.5	7.5.0.6	7.0、7.0.x、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x

メモ: NetBackup 6.x 製品ラインのサポートは、2012 年 10 月に終了しました。

NetBackup 互換性リスト

プラットフォーム、周辺機器、ドライブおよびライブラリの最新の互換性情報は、シマンテック社のサポート Web サイトのさまざまな互換性リストにあります。次の方法を使って、これらのリストと情報の場所を見つけることができます。

- 最新のプラットフォーム、周辺機器、ドライブ、ライブラリの検索には、**Symantec Operations Readiness Tools (SORT)** を使うことを推奨します。SORT にアクセスするには、次の Web ページに移動します。

<https://sort.symantec.com/netbackup>

NetBackup では、SORT によって、インストールとアップグレードのチェックリストのレポートおよび複数の UNIX、Linux または Windows 環境にまたがってホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。さらに、インストールした Hotfix や EEB がどのリリースで修正されているかを特定できます。このデータを使って、システムでこのリリースのインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを評価します。

- 特定の互換性リストを表示するのであれば、各リストへのリンクがシマンテック社のサポート Web サイトに掲載されています。

<http://www.symantec.com/docs/TECH59978> の『NetBackup Master Compatibility List』

以下の項目では、利用可能な互換性リストのそれぞれについて説明します。

- 『NetBackup Enterprise Server and Server 7.x Hardware Compatibility List』
このリストには、互換性のあるドライブ、ライブラリ、仮想テープデバイス、ロボット形式、ファイバーチャネル HBA、スイッチ、ルーター、ブリッジ、iSCSI 構成および暗号化デバイスに関する情報が含まれています。その他の互換性の情報は次のとおりです。

- NetBackup アプライアンス
- AdvancedDisk アレイ
- OpenStorage (OST) ソリューション
- テープドライブ
- ファイバートランスポートメディアサーバーのホストバスアダプタ (HBA)
- 仮想テープライブラリ (VTL)
- ネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) デバイス
- テープライブラリ
- 暗号化およびセキュリティソリューション

- 『NetBackup Enterprise Server and Server 7.x Hardware Compatibility List』

このリストには、互換性のあるドライブ、ライブラリ、仮想テープデバイス、ロボット形式、ファイバーチャネル HBA、スイッチ、ルーター、ブリッジ、iSCSI 構成および暗号化デバイスに関する情報が含まれています。

このリストには、次を含む複数のハードウェア設定に一致する、互換性のあるドライブ、ロボット形式、スイッチ、ルーター、ブリッジおよび iSCSI の構成に関する情報が含まれています。

- NetBackup アプライアンス
- AdvancedDisk アレイ
- OpenStorage (OST) ソリューション
- テープドライブ
- ファイバートランスポートメディアサーバーのホストバスアダプタ (HBA)
- 仮想テープライブラリ (VTL)
- ネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) デバイス
- テープライブラリ
- 暗号化およびセキュリティソリューション

- 『NetBackup 7.x Database and Application Agent Compatibility List』
このリストには、特定のオペレーティングシステムと CPU アーキテクチャでサポートされるデータベースエージェントおよびアプリケーションエージェントの最新の互換性情報が含まれています。
- 『NetBackup 7.x Snapshot Client Compatibility List』
このリストにはアレイ、エージェント、オペレーティングシステム、VSS プロバイダによって分類された最新のサーバーおよびクライアントのスナップショットの互換性情報を含んでいます。
- 『NetBackup 7.x Cluster Compatibility List』
このリストには、特定のオペレーティングシステムと CPU アーキテクチャでサポートされるクラスタの種類とバージョンの最新の互換性情報が含まれています。
- 『Statement of support for the importing of Backup Exec images in NetBackup 7.x using the Backup Exec Tape Reader』
- 『Support for NetBackup 7.x in virtual environments』
このリストには仮想環境での NetBackup の最新の互換性情報が含まれます。

製品の依存関係

この章では以下の項目について説明しています。

- オペレーティングシステムのパッチおよびアップグレード

オペレーティングシステムのパッチおよびアップグレード

この項では、このリリースの NetBackup 製品の依存関係について説明します。NetBackup をインストールする前に、オペレーティングシステムがすべての最新のパッチおよびアップグレードによって最新の状態になっていることを確認する必要があります。この項では、最小限のパッチレベルが必要なオペレーティングシステムについて説明します。互換性のあるオペレーティングシステム、アプリケーション、ハードウェアを含む NetBackup の互換性の詳細については、シマンテック社のサポート Web サイトの『NetBackup Master Compatibility List』を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH59978>

表 3-1 に、最低限必要な既知のオペレーティングシステム (OS) のパッチおよびアップデートを示します。この表に示すパッチより優先される最新のパッチが、ベンダーによってリリースされている可能性があります。最新のパッチ情報について、特定のベンダーのサポート Web サイトを参照することをお勧めします。

表 3-1 NetBackup 用のオペレーティングシステムのパッチおよびアップグレード

オペレーティングシステムの種類とバージョン	パッチ	注意事項
AIX 5.3	AIX ランタイムライブラリ 8.0.0.10 または 9.0.0.3 以降	バージョン 9.0.0.3 に変更した後に再起動する必要がある場合があります。

オペレーティングシステムの種類とバージョン	パッチ	注意事項
	x1C.rte 8.0.0.10 ファイルセット	x1C.rte 8.0.0.10ファイルセットの場合、 NetBackup データベースの作成または更新時の潜在的な問題を避けるために IY91284 修正パッチをインストールする必要があります。 IY91284 修正パッチは Maintenance Level 6 の一部です。
	AIX 5.3 TL12 SP2 (5300-12-02-1036)	NetBackup 7.5 では、 AIX 5.3 TL12 SP2 (5300-12-02-1036) Maintenance Pack が最低限必要です。(より高いパッチレベルも機能します。) <code>oslevel -s</code> コマンドを使用して、インストールした Maintenance Pack レベルを確認できます。
AIX 6.1	AIX 6.1 TL2 SP5 (6100-05-02-1034)	NetBackup 7.5 では、 AIX 6.1 TL2 SP5 (6100-05-02-1034) Maintenance Pack が最低限必要です。(より高いパッチレベルも機能します。) <code>oslevel -s</code> コマンドを使用して、インストールした Maintenance Pack レベルを確認できます。
	AIX ランタイムライブラリ 9.0.0.3 以降	ランタイムライブラリは 9.0.0.3 以降である必要があります。バージョン 9.0.0.3 に変更した後に再起動する必要があります。
HP-UX	COMPLIBS.LIBM-PS32	HP-UX プラットフォーム上に AT をインストールする場合、このパッチが必要になります。
HP-UX IA64	Networking.NET-RUN: /usr/lib/libip6.sl	
	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.1	
	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.sl	
	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux32/libip6.so	
	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux32/libip6.so.1	
	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux64/libip6.so	
	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux64/libip6.so.1	

オペレーティングシステムの種類とバージョン	パッチ	注意事項
	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/libip6.1	
HP-UX PA-RISC	Networking.NET-RUN: /usr/lib/libip6.sl	HP-UX PA-RISC プラットフォームの場合、このファイルセットが必要になります。
	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.1	HP-UX PA-RISC プラットフォームの場合、このファイルセットが必要になります。
	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.sl	HP-UX PA-RISC プラットフォームの場合、このファイルセットが必要になります。
	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/libip6.1	HP-UX PA-RISC プラットフォームの場合、このファイルセットが必要になります。
HP-UX 11.11	PHSS_35385	このパッチは、 JAVA 6.0 の場合に必要です。
	PHSS_32226	このパッチは LIBCL パッチです。
	PHSS_37516	<p>次の修正を含んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ QXCR1000593919: purifyplus は、PA32 にコアをダンプします。 ■ QXCR1000589142: dld は、aCC アプリケーションが存在している場合は LL_new_descendent_list でクラッシュします。 ■ QXCR1000589142: dld は、aCC アプリケーションが存在している場合は LL_new_descendent_list でクラッシュします。 ■ QXCR1000746161: dlsym() がハングアップします。 ■ QXCR1000593999: dld は、chatr +mem_check 対応 64ビットの実行可能ファイルのサートメッセージを生成します。
	PHSS_26946	このパッチは C++ ランタイムコードを正しく動作させるために必要です。
	PHSS_27740	このパッチは libc 累積パッチです。
	PHSS_26560	このパッチはリンカツール累積パッチを含んでいます。
	PHSS_32864	NetBackup クライアントのバックアップを正常に実行するために必要な HP の推奨重要パッチです。

オペレーティングシステムの種類とバージョン	パッチ	注意事項
	PHKL_26233	このパッチにより HP-UX 11.11 mmap () で 2 GB から 4 GB の大きなファイルを使用できます。
	PHSS_35379	NetBackup クライアントのバックアップを正常に実行するために必要な HP の推奨重要パッチです。
	PHCO_29029	NetBackup で VxSS を使用するために必要な HP の推奨重要パッチです。
	PHSS_24045	/var/stm/config/tools/monitor/dm_stape.cfg の POLL_INTERVAL に 0 が設定されます。これにより、 Event Monitoring System 内で dm_stape 監視が無効になります。IPR0109 にアップグレードすることをお勧めします。
	PHSS_30970	このパッチは、setuid ビットが設定されているプログラムに問題を発生させる場合があります。 Hewlett-Packard 社の IT リソースセンターの Web サイトに、このパッチについての情報があります。 http://h20565.www2.hp.com/portal/site/hpsc/public/
	PHCO_35743	S700_800 11.11 libc の累積パッチ 上のパッチに次のパッチの依存関係があります。 ■ PHCO_31923 (重要パッチ): s700_800 11.11 libc の累積ヘッダーファイルパッチ ■ PHKL_34805: 700_800 11.11 JFS3.3 パッチ; mmap
HP-UX 11.23	PHSS_37201	このパッチは、JAVA 6.0 の場合に必要です。
	PHCO_33431	11.23 を実行している場合は、このパッチをインストールすることをお勧めします。HP Itanium は 11.31 に移行したため、これは HP PA-RISC のみに適用されます。
	PHSS_34858	dlopen を正常に実行するために必要な HP の推奨重要パッチです。
	PHKL_31500	特に NetBackup アクセス制御機能 (NBAC) を使用して NetBackup を実行する場合に、 NetBackup で必要な HP の推奨重要パッチです。

オペレーティングシステムの種類とバージョン	パッチ	注意事項
	PHSS_37492	次の修正を含んでいます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ QXCR1000593919: purifyplus は、PA32 にコアをダンプします。 ■ QXCR1000589142: dld は、aCC アプリケーションが存在している場合は LL_new_descendent_list でクラッシュします。 ■ QXCR1000746161: dlsym() がハングアップします。 ■ QXCR1000593999: dld は、chatr +mem_check 対応 64 ビットの実行可能ファイルのサートメッセージを生成します。
HP-UX 11.31	PHSS_37202	このパッチは、JAVA 6.0 の場合に必要です。
	QPK1131 (B.11.31.1003.347a) パッチバンドル	このパッチバンドルは NetBackup メディアサーバーのサポートに必要です。これは HP-UX March 2010 パッチバンドルです。
Solaris 9 SPARC 64 ビット版クライアント	111712-11 (以上)	変更要求 ID - 6815915
	111722-04 (以上)	
	パッチ: 112908-29 (以上)	
	パッチ: 112874-31 (以上)	
	122300-53	変更要求 ID - 6723423
Solaris 10 SPARC 64 ビット (サーバーとクライアント)	Update 4 (08/07) 以降	サーバーは、Update 4 (08/07) 以降でサポートされます。

オペレーティングシステムの種類とバージョン	パッチ	注意事項
	<p>推奨パッチセット - 2011年6月以降</p>	<p>2011年6月(以降)のパッチセットを Oracle のサポート Web サイトからダウンロードすることをお勧めします。</p> <p>https://support.oracle.com</p> <p>このパッチセットには、次の最小限の推奨パッチが含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 118777-17 (SunOS 5.10: Sun GigaSwift Ethernet 1.0ドライバパッチ) ■ 139555-08 (C++ライブラリの更新を含むカーネルパッチ)。 ■ 142394-01 (ICMP (Internet Control Message Protocol) パッチ) ■ 143513-02 (DLADM (Data Link Admin command for Solaris) パッチ) ■ 141562-02 (ARP (Address Resolution Protocol) パッチ) <p>次のパッチは、NXGE カード搭載の Solaris 10 SPARC にお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 142909-17 (SunOS 5.10: nxge パッチ) ■ 143897-03 (Distributed Link Software パッチ) ■ 143135-03 (集約パッチ) ■ 119963-21 (変更要求 ID - 6815915) ■ 139555-08 (変更要求 ID - 6723423)

オペレーティングシステムの種類とバージョン	パッチ	注意事項
Solaris 10 x86-64	推奨パッチセット - 2011 年 12 月 28 日以降	<p>2011 年 12 月 28 日 (以降) のパッチセットを Oracle のサポート Web サイトからダウンロードすることをお勧めします。</p> <p>https://support.oracle.com</p> <p>このパッチセットには、次の最小限の推奨パッチが含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 118778-15 (SunOS 5.10_x86: Sun GigaSwift Ethernet 1.0 ドライバパッチ) ■ 139556-08 (C++ ライブラリの更新を含むカーネルパッチ) ■ 142395-01 (SunOS 5.10_x86: ICMP パッチ) ■ 143514-02 (SunOS 5.10_x86: Data Link Admin command for Solaris パッチ) ■ 147259-02 (SunOS 5.10_x86: 集約パッチ) ■ 142910-17 (NXGE 修正を含めるための SunOS 5.10_x86 カーネルパッチ) ■ 142910-17 (SunOS 5.10_x86: Distributed Link Software パッチ) ■ 143136-03 (SunOS 5.10_x86: 集約パッチ) ■ 139556-08 (変更要求 ID - 6723423) ■ 119964-21 (変更要求 ID - 6815915)
SUSE Linux Enterprise Server 10 x64	Service Pack 2 以降	NetBackup 7.0 を実行するには、オペレーティングシステムのバージョンが SUSE Linux Enterprise Server 10 SP2 以降である必要があります。
Windows XP x86-32	KB936357	Microsoft マイクロコード信頼性更新。
Windows XP x86-64	KB928646	PBX の接続試行のハングアップに対する Hotfix。
Windows Vista x86-32	KB936357	Microsoft マイクロコード信頼性更新。
	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。
Windows Vista x86-64	KB936357	Microsoft マイクロコード信頼性更新。
	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。
Windows Server 2003 IA64 (SP1 & SP2)	KB913648	ボリュームシャドウコピーを実行するために必要な更新を含んでいます。

オペレーティングシステムの種類とバージョン	パッチ	注意事項
	KB928646	PBX の接続試行のハングアップに対する Hotfix。
Windows Server 2003 x86-32 (SP1 & SP2)	KB883646	Microsoft Storport の Hotfix。
	KB913648	ボリュームシャドウコピーを実行するために必要な更新を含んでいます。
	KB936357	Microsoft マイクロコード信頼性更新。
Windows Server 2003 x86-32 (SP2)	KB971383	TCP/IP プロトコルドライバは切断のイベントをランダムにトリガします。マスターサーバーとメディアサーバーに必要です。
Windows Server 2003 x86-64 (SP1 & SP2)	KB883646	Microsoft Storport の Hotfix。
	KB913648	ボリュームシャドウコピーを実行するために必要な更新を含んでいます。
	KB928646	PBX の接続試行のハングアップに対する Hotfix。
	KB936357	Microsoft マイクロコード信頼性更新。
Windows Server 2003 x86-64 (SP2)	KB971383	TCP/IP プロトコルドライバは切断のイベントをランダムにトリガします。マスターサーバーとメディアサーバーに必要です。
Windows Server 2008 x86-32	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。
Windows Server 2008 x86-64	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。
Windows Server 2008 IA64	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。
Windows Server 2008 (SP2)	KB979612	TCP ループバック遅延と UDP 遅延を改善するホットフィックス。
Windows Server 2008 R2 (SP1)	KB2265716	コンピュータがランダムに応答停止する場合のホットフィックス。
	KB982383	ディスク I/O 負荷が大きい状態で I/O パフォーマンスが低下する場合のホットフィックス。
	KB983544	レジストリハイブファイルの「修正日時」ファイル属性の更新。

オペレーティングシステムの種類とバージョン	パッチ	注意事項
	KB979612	TCP ループバック遅延とUDP 遅延を改善するホットフィックス。

操作上の注意事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 7.5.0.6 の操作上の注意事項について](#)
- [インストールおよびアップグレードの注意事項](#)
- [NetBackup 7.5.0.6 の一般的な注意事項](#)
- [Bare Metal Restore の注意事項](#)
- [クラウドストレージの注意事項](#)
- [データベースとアプリケーションエージェントの注意事項](#)
- [重複排除の注意事項](#)
- [OpsCenter の注意事項](#)
- [NetBackup Search の注意事項](#)
- [仮想化の注意事項](#)

NetBackup 7.5.0.6 の操作上の注意事項について

NetBackup 7.5.0.6 メンテナンスリリースの更新は NetBackup 7.5 リリースに基づいています。これは、NetBackup 7.5 に記載されている操作上の注意事項がこのリリースでも適用されることがあることを意味します。したがって、このメンテナンスリリースで不明点がある場合には、7.5 のドキュメントも併せて確認してください。

<http://www.symantec.com/docs/DOC5041>

この章では、NetBackup のマニュアルセットに含まれている他のマニュアルに記載されていない NetBackup 7.5.0.6 の操作に関する重要な注意事項について説明します。この文書はシマンテック社のサポート Web サイトに公開されており、NetBackup 7.5.0.6 の GA リリースの後に更新される可能性があります。したがって、最新のリリース情報を確認

するためにシマンテック社のサポートWebサイトの次のマニュアルを参照することを推奨します。

<http://www.symantec.com/docs/DOC6396>

インストールおよびアップグレードの注意事項

この項では、NetBackup の今回のリリースのインストールおよびアップグレードに関わる操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

- NetBackup MSDP または PureDisk のユーザーである場合、アップグレードする前に次の項を参照してください。

p.37 の「MSDP および PureDisk の重複排除ソリューションのアップグレードについて」を参照してください。

- NetBackup Search のユーザーである場合、アップグレードする前に次の項を参照してください。

p.43 の「Search の NetBackup 7.5.0.x へのアップグレードについて」を参照してください。

- **メモ:** 追加の手順は Solaris クラスターで NetBackup 7.5.0.6 OpsCenter および OpsCenter Analytics Server をインストールする前後に必要となります。インストールを試みる前に、シマンテック社のサポートWebサイトの次の Technote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH207395>

追加のインストール後の作業が実行されない場合、OpsCenter サービスは NetBackup 7.5.0.6 にアップグレード後、開始しません。

- Windows 8 および Windows Server 2012 は特別な完全インストールのパッケージを必要とします。

他のすべてのサポート対象のプラットフォーム (Windows の他のバージョンを含む) では、バージョン 7.5.0.x にアップグレードする前に、NetBackup 7.5 をインストールする必要があります。ただし、Windows 8 および Windows Server 2012 への NetBackup のインストールは、バージョン 7.5.0.6 以前のバージョンでサポートされません。Windows 8 および Windows Server 2012 で NetBackup をインストールするには、NetBackup の特別な完全インストールのパッケージを使う必要があります。このインストールパッケージはクライアントを直接 7.5.0.6 にし、Windows の他のどのオペレーティングシステムも対象としません。

- 特別な完全インストールのパッケージは Windows 8 および Windows Server 2012 のすべての x64 エディションのクライアントのみを対象としたパッケージです。メディアサーバーまたはマスターサーバーのインストールは利用できません。Windows の 32 ビット OS のインストールはサポートされません。

- パッケージは NTFS ファイルシステムにインストールされます。ReFS ファイルシステムがバックアップエンティティとしてサポートされますが、ReFS へのこのクライアントパッケージのインストールはサポートされません。
- パッケージは NetBackup 7.5 以降のサーバー環境で使われる必要があります。
- 次のリストはこのパッケージに適用される制限事項の一部を含んでいます。
Windows 8 および Windows Server 2012 の NetBackup の制限事項についての詳細は、シマンテック社のサポート Web サイトの「**NetBackup Master Compatibility List**」を参照してください。
<http://www.symantec.com/docs/TECH59978>
 - BMR クライアントやブートサーバーはサポートされません。
 - Client Direct、クライアント側の重複排除、MSDP、および PDDO はサポートされません。
 - Remote VSS (Windows Server 2012 の新しい機能) はサポートされません。
 - NTFS の重複排除ボリュームのファイルは最適化された形ではなく完全バックアップされます。
 - NTFS ファイルシステムからバックアップしたファイルを ReFS ファイルシステムにリストアすることはサポートされません。回避策として、NTFS ファイルシステムにリストアし、ReFS がサポートしない属性を削除し、その後 ReFS ファイルシステムにファイルをコピーすることが可能です。
 - VMware バックアップホストはサポートされません。
 - Hyper-V バックアップからのファイルレベルのリカバリは次の場合にはサポートされません。
 - ファイルが耐性のあるファイルシステム (ReFS) ボリュームがら作成された。または
 - 仮想マシンは VHDX ファイルで構成されている。
 - リモート管理コンソールは Windows 8 および Windows Server 2012 でサポートされません。
 - Java ベースの Windows 管理コンソールは Windows 8 および Windows Server 2012 でサポートされません。
 - LiveUpdate は NetBackup 7.1.0.4 の 7.5.0.6 へのアップグレードパスの Windows 8 および Windows Server 2012 でサポートされません。

メモ: 技術的な制限事項が原因で、この方法がサポートされなくても、通常版の Windows インストーラ (x86、x64 両方) は Windows 8 および Windows Server 2012 へのインストールを防ぎません。Windows 8 および Windows Server 2012 で NetBackup をインストールする唯一のサポート対象の方法は特別な 7.5.0.6 x64 の完全インストールのパッケージを使うことです。

- NetBackup は Windows クライアント用に簡単なクライアント名に移行しています。新しいクライアントの選択 [Windows] はクライアントの特定の Windows バージョンに関わらずすべてのサポート対象の Windows クライアントのために使います。将来のリリースでは、Windows バージョンごとの選択は除去されます。この移行の一部として、クライアントの選択 [Windows] はクライアントの選択メニューに表示される場合もあり、表示されない場合もあります。適切なアーキテクチャ (x86 または x64) を新しい [Windows] の選択メニューで選択してください。[Windows] の選択が利用可能でなかったら、特定の Windows のバージョンを選択してください。

メモ: Windows 8 または Windows Server 2012 を NetBackup インターフェースのいずれかによって追加したときに [Windows] の選択が利用できない場合、Windows 7 または Windows 2008 のメニュー項目を選択してください。

- NetBackup Windows クライアントソフトウェアをリモートインストールするには、システムが次の構成要件を満たしている必要があります。要件の 1 つは Remote Registry サービスがリモートシステムで開始されることです。NetBackup 7.5.0.6 以降で、NetBackup のインストーラはリモートシステムの Remote Registry サービスを有効にし、開始できます。Remote Registry サービスが開始されない場合、インストールは次のエラーメッセージを受信します。

```
Attempting to connect to server server_name failed
with the following error: Unable to connect to the remote
system. One possible cause for this is the absence of the
Remote Registry service. Please ensure this service is started
on the remote host and try again.
```

NetBackup 7.5.0.6 の一般的な注意事項

この項では、NetBackup の今回のリリースに関わる操作上の一般的な注意事項と既知の問題について説明します。

- NetBackup のネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) バックアップポリシーがバックアップ選択項目の `set type=tar` 指示句で設定されている場合、問題が発生する

ことがあります。増分 NDMP バックアップが保存するファイルのパスの親ディレクトリはバックアップイメージに存在しない場合があります。この問題について詳しくは、シマンテック社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH202412>

- ネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) バックアップのパフォーマンスはログレベルが 4 または 5 に設定されると、悪影響を受ける可能性があります。パフォーマンスへの影響は NDMP バックアップの失敗を引き起こす重大なものになる場合があります。この問題を回避するため、ログレベルを 3 以下に設定することを推奨します。
- Rackspace のプラグインが IPv6 対応の Windows Server 2008 R2 を実行するホストで使われているとき、NetBackup にネットワーク接続の問題が発生する場合があります。Rackspace のプラグインを使う Windows Server 2008 R2 のホストでは IPv6 を無効にすることを推奨します。
- NetApp および CIFS 共有が特定のセキュリティおよびアクセス権限で構成されているとき、NetBackup Windows クライアントのバックアップが失敗します。
NetApp ボリュームが「混合の」セキュリティ形式で構成されており、クライアントユーザーへの読み取りアクセスを与えない NetApp CIFS 共有とともに使われている場合、クライアントバックアップは失敗します。この問題は NetApp ボリュームが「混合の」セキュリティ形式で構成されているときのみ発生します。この問題は NTFS または UNIX 形式で構成されるボリュームには影響しません。
 - この問題の回避策は NetBackup のクライアントサービスを動作しているユーザーに CIFS 共有への明示的な読み取りアクセスを追加することです。
- C:\ のような Windows のシステムドライブのルートディレクトリに、「program」という名前のファイルが存在すると、NetBackup は正しく機能しません。このようなファイルは、NetBackup がコマンドラインの実行と作成オプションの処理の前に削除するか、名前を変更する必要があります。
- データベース構成パラメータ USEREXIT と LOGRETAIN は非推奨で、DB2 10.1 以降では有効ではありません。代わりに、LOGARCHMETH1 で UserExit プログラムを設定します。
- NetBackup Vault の sidxxx/logs ディレクトリで見つかるすべてのセッションログファイルにパブリックの書き込み権限があります。これによりログファイルに書き込むすべての処理が許可されます。

Windows および UNIX サーバーのログディレクトリのパスは次のとおりです。

- Windows の場合:

```
install_path¥NetBackup¥vault¥sessions¥vault_name¥sidxxx¥logs¥
```

- UNIX の場合:

```
/usr/opensv/netbackup/vault/sessions/vault_name/sidxxx/logs/
```

ここで vault_name はセッションに使われる Vault の名前、xxx は一意のセッション ID です。

- NetBackup 7.5.0.6 へのアップグレード後、`nblog.conf` ファイルの個々のオブジェクト ID への変更は保持されません。ただし、主要なデフォルト設定は保存されます。
- ファイルマッピングを必要とする Linux 仮想マシンバックアップの場合、LVM ボリュームの名前に次の特殊文字のいずれかを含めることができます。
 - . (ピリオド)
 - _ (アンダースコア)
 - - (ハイフン)他の特殊文字はサポートされません。ボリューム名に他の特殊文字が使われている場合、ポリシーオプション[VMバックアップからのファイルリカバリを有効にする(Enable file recovery from VM backup)]は機能しません。その結果、そのボリュームから個々のファイルをリストアすることはできません。

Bare Metal Restore の注意事項

この項では、NetBackup の今回のリリースの Bare Metal Restore に関わる操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

- バックアップされたファイルシステムが RHEL 用に暗号化されている場合、そのシステムを BMR オプションでリストアすると、既存の暗号化が解除されます。
- `/etc/mke2fs.conf` ファイルをリストアするときに、NetBackup 管理コンソールの[アクティビティモニター]タブに、リストアタスクが部分的に完了したと表示されます。この問題は RHEL6 アップデート 2 以降のプラットフォームで発生し、クライアントの BMR リカバリが正常に完了した場合でも発生します。この問題は、ファイルがリストアされた後、BMR 環境で `/etc/mke2fs.conf` ファイルのセキュリティプロパティに不適切な設定が含まれることにより発生します。
- Bare Metal Restore 中に、Zeta ファイルシステム (ZFS) の一時マウントが失敗します。この問題は、バックアップ中にいずれの ZFS もマウントされなかった場合や、`canmount` の値が `OFF` に設定された場合に発生します。

ディスクまたはディスクプールを制限するには、Bare Metal Restore の構成を編集します。この編集によって、リストアプロセス中にディスクが上書きされたり、そこに含まれているデータが消去されないようにします。

構成の編集方法について詳しくは、『Bare Metal Restore 管理者ガイド』の次のセクションを参照してください。

 - クライアントおよび構成の管理
 - クライアント構成プロパティ
- BMR リストアが Red Hat Enterprise Linux 6 で実行された後、問題が発生することがあります。

BMR Linux のリストアタスクの完了後、GRUB メニューの検索時にシステムが「カーネルパニック」を表示することがあります。最初の再起動中、システムが「メンテナンスモード」に入ることがあります。これらの問題は UDEV デーモンが動的にデバイスを検出し、再起動中にディスク名とさまざまな構成ファイルの順番に矛盾を引き起こすことで発生します。

この問題が発生した場合、シマンテック社のテクニカルサポートに問い合わせ、サポート担当者は次の TechNote を参照します: TECH201332 および TECH179048。

クラウドストレージの注意事項

この項では、NetBackup の今回のリリースのクラウドストレージに関わる操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

- マスターサーバーのみが[クラウドストレージサーバーの構成ウィザード (Cloud Storage Server Configuration Wizard)]にリストされるという問題が起きます。同じ問題により、メディアサーバーのホストプロパティにあるマスターサーバーで[クラウドストレージ (Cloud Storage)]のみが認識可能になります。

この問題は、新しい Windows NetBackup 管理コンソールセッションが開始するかマスターサーバーの NetBackup Service Layer (NBSL) サービスが再起動するときに起きます。この問題は[クラウドストレージ構成ウィザード (Cloud Storage Configuration Wizard)]かメディアサーバーのホストプロパティウィンドウが初めて開くときにメディアサーバーがクラウドサポートでスキャンされる結果です。環境に複数のメディアサーバーがある場合、初期には表示されない場合があります。

この問題を回避するためには、[クラウドストレージ構成ウィザード (Cloud Storage Configuration Wizard)]やメディアサーバーのホストプロパティウィンドウを中止して終了してください。2 分から 4 分ほど待ち(いくつメディアサーバーを構成したかによります)、その後ウィザードかメディアサーバーのホストプロパティウィンドウを再度開いてください。メディアサーバーは再度開くと表示されます。再度開いたウィザードでメディアサーバーがまだリストされていない場合、ウィザードを再度中止し、表示されるまで待機時間を繰り返してください。

- このリリースから、ストレージの場所に関係なく Amazon Simple Storage Service でディスクプールを作成できます。米国外の地域にあるディスクプールの作成には、ストレージへのアクセスがある NetBackup メディアサーバーすべてがリリース 7.5.0.6 である必要があります。NetBackup メディアサーバーすべてをリリース 7.5.0.6 にアップグレードすることをお勧めします。

データベースとアプリケーションエージェントの注意事項

この項では、NetBackup の今回のリリースのデータベースとアプリケーションエージェントのサポートに関わる操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

- 増分バックアップ(差分または累積)を加えた完全バックアップのリストアを実行できない場合に、問題が発生することがあります。完全バックアップのリストアは正常に実行されますが、増分のリストアは **tar32** ログに次のエラーを表示して失敗します。

```
11:48:38.468 [11800.15932] <2> beds_ese_access::  
V_PrepareForRestore(): ERR - Error calling RestorePrepare  
(0xE000FED1:A failure occurred querying the Writer status.  
See the job log for details about the error.
```

- **SQL Server** を保護する **VMware** バックアップでは、次の点に注意してください。
 - **SQL Server** データベース名には、次の文字を含めることはできません。
`? * ¥ "`
 - レプリケーションディレクトラを使って **SQL Server 2012** を含む **VMware** スナップショットとスナップショットレプリケーションを管理するには、ログオンアカウントの変更が必要な場合があります。**NetBackup Client Service** のログオンアカウントは **NetApp** ディスクアレイで作成された **CIFS** 共有へのアクセスを持つ必要があります。
 - **NetBackup Legacy Network Service** のログオンアカウントを固定サーバーロール「**sysadmin**」があるアカウントに変更してください。
 - **Windows Server 2008/2012** の **SQL 2012** の場合、**Microsoft SQL Server Service** を実行するアカウントには **NetBackup Legacy Network Service** の一時ディレクトリに対する完全な権限が必要になります。このディレクトリは `C:\¥Users¥user¥AppData¥Local¥Temp` で、**User** が **NetBackup Legacy Network Service** を実行するアカウントになります。
- 日立社および **IBM HANA** のアプライアンスの場合、さらにライブラリ `libelf.so.0` を追加する必要があります。詳しくは、『**NetBackup for SAP 管理者ガイド**』を参照してください。
- **HANA** のバックアップとリストアは **NetBackup** 管理コンソールからではなく、**SAP HANA Studio** から開始されます。
- **SharePoint** メタデータは、コンテンツデータベース以外の場所に保存されるため、個別リカバリテクノロジー(**GRT**)を使ってリストアできません。ただし、メタデータが付属する **SharePoint** データをリストアするために **GRT** を使うことができます。メタデータが同じサービスアプリケーションに存在する限り、**SharePoint** は 2 つの項目間のリンクを保持します。
- **NetBackup** はマルチテナントの **Exchange** 環境でテナントのメールボックスへのメールボックス項目のリストアをサポートしません。テナントのメールボックスに関する項目をリカバリするには、非テナントのメールボックスにリカバリをリダイレクトしてください。**Exchange Server** データベースのバックアップとリカバリはマルチテナント環境でも全面的にサポートされます。

- NetBackup はマルチテナントの SharePoint 環境で Microsoft SharePoint Server バックアップを用いた個別リカバリテクノロジー (GRT) をサポートしません。SharePoint Server データベースのバックアップとリカバリはそのような環境でも全面的にサポートされます。
- NetBackup for Exchange エージェントと NetBackup for SharePoint エージェントは、バックアップが最初に作成されたときと同じ Microsoft Service Pack (SP) または累積更新プログラム (CU) へのリストアをサポートします。Microsoft 社は SP や CU のデータベーススキーマに変更を加えることがあります。異なるレベルの SP または CU にリストアすると、データベースサーバーが正しく動作しないことがあります。

Exchange 操作の最小の NetBackup アカウントの作成 (Exchange 2010 以降)

このプロシージャは、Exchange 2010 以降の NetBackup Exchange 操作のための最小のアカウントを作成する方法を記述します。このアカウントは Exchange のクライアントのホストプロパティの Exchange クレデンシャルで使われ、NetBackup での個別リカバリの技術 (GRT) による操作の実行を可能にします。

次の点に注意してください。

- 各 Exchange メールボックスサーバーと CAS サーバーを設定します。
- 個別の操作を実行する各クライアントを構成します。構成するクライアントを決定する方法については、次の項を参照してください。
- クラスタ環境の場合は、クラスタ内のデータベースノードごとにこれらの手順を実行します。Exchange DAG の場合は、DAG と CAS サーバーの各データベースノードでこれらの手順を実行します。

Exchange 2010 以降の操作のための最小の NetBackup アカウントを作成する方法

- 1 [Active Directory ユーザーとコンピュータ]で、[ユーザー (Users)]フォルダを選択します。
- 2 右クリックし、[新規 (New)] > [ユーザー (User)]を選択し、新しいアカウントの名前を指定します。たとえば、*NetBackupUser*。
- 3 [所属するグループ (Member Of)]タブを選択します。
- 4 [追加 (Add)]をクリックし、[管理者 (Administrators)]をユーザーに追加します。

- 5 新しいロールグループを作成し、アカウントをこのグループのメンバーとしてロールを割り当てます。Exchange 管理シェルを使って次のコマンドを実行します。

メモ: アカウントに必要な権限がなければ、管理者はこれらのタスクを実行する必要があります。

```
New-RoleGroup -Name NetBackupRoles -Roles @("Database Copies", "Databases",  
"Exchange Servers", "Monitoring", "Mail Recipient Creation", "Mail Recipients",  
"Recipient Policies"
```

```
Add-RoleGroupMember -Identity NetBackupRoles -Member NetBackupUser
```

ここで、*NetBackupUser* は 2 で作成した Active Directory アカウントの名前です。

- 6 個別リカバリテクノロジー(GRT)でリストアを実行するには、Exchange 管理シェルで次のコマンドも実行します。

Exchange 2010 の場合:

```
New-ManagementRole -Name SymantecEWSImpersonationRole -Parent ApplicationImpersonation
```

```
New-ManagementRoleAssignment -Role SymantecEWSImpersonationRole -User NetBackupUser  
-Name "NetBackupUser-EWSImpersonation"
```

```
New-ThrottlingPolicy -Name "SymantecEWSRestoreThrottlingPolicy" -EWSPercentTimeInCAS  
$null -EWSPercentTimeInAD $null -EWSMaxConcurrency $null -EWSPercentTimeInMailboxRPC  
$null -PowerShellMaxConcurrency $null
```

```
Set-Mailbox -Identity NetBackupUser -ThrottlingPolicy "SymantecEWSRestoreThrottlingPolicy"
```

Exchange 2013 の場合:

```
New-ManagementRole -Name SymantecEWSImpersonationRole -Parent ApplicationImpersonation
```

```
New-ManagementRoleAssignment -Role SymantecEWSImpersonationRole -User NetBackupUser  
-Name "NetBackupUser-EWSImpersonation"
```

```
Set-Mailbox -Identity NetBackupUser -ThrottlingPolicy "SymantecEWSRestoreThrottlingPolicy"
```

- 7 Exchange クライアントのホストプロパティで、このアカウントのクレデンシャルを指定します。
- 8 このアカウントに「プロセスレベルトークンの置き換え」の権限を設定します。

重複排除の注意事項

この項では、NetBackup の今回のリリースの重複排除機能 (MSDP および PureDisk など) に関わる操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

- NetBackup 7.5.0.6 より前、1 つの MSDP または PureDisk のストレージユニットへ複数のアクセラレータバックアップを実行する問題がありました。この場合、ジョブはハングアップしたように見え、メディアサーバーの重複排除サービスは応答なくなり、そしてコンテンツルーターデーモン spoold (重複排除エンジン) は応答停止します。この問題は少数のまれなケースを除いて NetBackup 7.5.0.6 で修正済みです。この問題が発生した場合は、PREFETCH_SIZE と RESTORE_DECRYPT_LOCAL の設定 (pd.conf ファイルにあります) を次に変更します。

```
# Buffer size to use when prefetching data for restore operations (B)
PREFETCH_SIZE = 16777216
```

```
# Agent side decryption and decompression on restore (0=off, 1=on)
RESTORE_DECRYPT_LOCAL = 1
```

MSDP および PureDisk の重複排除ソリューションのアップグレードについて

メモ: NetBackup メディアサーバーすべてが Windows を実行し、MSDP を実行している UNIX サーバーを追加することを計画していない場合、残りのトピックを無視しても問題ありません。

この項は次の重複排除ソリューションに適用されます。

- NetBackup メディアサーバーの重複排除オプション (マスターサーバー、メディアサーバー、クライアント、または VMware バックアップホスト)
- NetBackup アプライアンスの重複排除 (マスターサーバー、メディアサーバー、または VMware バックアップホスト)
- PureDisk の重複排除
- PureDisk アプライアンスの重複排除

NetBackup 7.5.0.6 の前のバージョンでは、NetBackup が MSDP または PureDisk のストレージユニットで格納されるイメージを読み込むことができないという問題が発生する可能性があります。問題は重複排除エンジンが大文字と小文字を区別するファイルシステムの重複排除データベースでクライアントおよびポリシー名を不適当に格納することに起因します。この問題と関連した読み込みエラーによるエラーが発生する可能性がある操作の形式は、検証、リストア、複製およびレプリケーションを含んでいます。MSDP では、問題は NetBackup 7.5.0.6 以降で解決されています。

表 4-1 大文字と小文字の区別に起因することがある失敗した操作の例

操作	アクティビティモニターの状態	アクティビティモニターに表示されるジョブの詳細	bpdm および bptm のログファイルの状態
検証	(191) 正常に処理されたイメージはありませんでした	イメージを開けませんでした: エラー 2060018: ファイルが見つかりません	sts_open_image が失敗しました: エラー 2060018
リストア	(83) メディアのオープンエラー	イメージを開けませんでした: エラー 2060018: ファイルが見つかりません	sts_open_image が失敗しました: エラー 2060018

クライアント名の大文字と小文字の区別のシナリオ例

バージョン 7.5.0.6 以前の NetBackup のバージョンを実行する my_client という名前の NetBackup クライアントがあり、my_policy という名前の対応するポリシーがあります。また、my_client が UNIX ベースの MSDP または PureDisk のストレージユニットにクライアント側の重複排除を実行するとします。次に、次の手順を実行するとします。

1. my_policy の正常なバックアップが MSDP または PureDisk のストレージユニットに実行されます。
2. ポリシー my_policy のクライアントの名前は my_client から MY_CLIENT に変更されます。
3. my_policy の別の正常なバックアップが MSDP または PureDisk のストレージユニットに実行されます。

両方のバックアップのデータが保存されます。ただし、重複排除エンジンが大文字と小文字の区別ありのファイルシステムにある場合、第 2 のバックアップからのデータを読み込もうとする操作が失敗します。エラーは重複排除データベースのエントリ my_client が MY_CLIENT と異なるために起こります。

問題が発生する可能性があるクライアントおよびサーバーの判断

大文字と小文字の区別の問題は、ご使用の環境で NetBackup メディアサーバーか PureDisk サーバーで実行している UNIX のオペレーティングシステムで次の MSDP 機能のいずれかを実行する場合に起こる可能性があります (NetBackup アプライアンスおよび PureDisk アプライアンスを含みます)。

1. 接続したストレージへのメディアサーバーの重複排除
2. 別のメディアサーバーへのメディアサーバーの重複排除
3. PureDisk サーバーへのメディアサーバーの重複排除

4. メディアサーバーへのクライアント側の重複排除
5. PureDisk サーバーへのクライアント側の重複排除

メモ: 表示されたすべての操作は重複排除エンジンを実行する VMware バックアップホストに適用されます。

また、表示された操作すべては重複排除エンジンを実行しメディアサーバーとして機能するマスターサーバーに適用されます。

シマンテック社は、表示された操作に関連する環境内のサーバー、クライアントおよび VMware バックアップホストすべてをアップグレードすることを推奨します。NetBackup 7.5.0.6 以降で、重複排除データベースへの書き込みは問題を修復するために更新されました。データベースの書き込みは修正され、NetBackup クライアント名およびポリシーに使われる文字の大文字と小文字の変更はバックアップイメージの読み込みエラーを引き起こさないようになりました。これらのバージョンにアップグレードしない場合、この問題により今後のバックアップイメージに対する読み込みエラーが発生する可能性があります。

メモ: NetBackup のアップグレードポリシーと同様に、メディアサーバーおよびクライアントは 7.5.0.6 にアップグレードする前に少なくとも NetBackup 7.5 を実行する必要があります。

MSDP および PureDisk データベースでの名前の大文字と小文字の区別の問題の解決

すでにクライアント名またはポリシー名の大文字と小文字の区別の問題によるイメージの読み取りエラーが発生した場合、まず影響を受けたホストを NetBackup 7.5.0.6 以降にアップグレードする必要があります。アップグレード後も、名前の大文字と小文字の区別の問題はバージョン 7.5.0.6 以前の NetBackup のバージョンによってアップグレードの前に作成されたイメージに影響します。クライアントおよびポリシー名の大文字と小文字の区別の問題を既存の NetBackup のイメージで修復する正しいアプローチの選択には、次の表を使ってください。

表 4-2

問題となる名前の種類	ストレージユニット形式	必要な処理
クライアント	MSDP	MSDP データベースを修復します
クライアント	PureDisk	シマンテック社のテクニカルサポートに連絡します
ポリシー	MSDP	シマンテック社のテクニカルサポートに連絡します

問題となる名前の種類	ストレージユニット形式	必要な処理
ポリシー	PureDisk	シマンテック社のテクニカルサポートに連絡します

MSPD か PureDisk を修復する特別な手順は次の URL にあるシマンテック社のサポート Web サイトで利用可能です。

<http://www.symantec.com/docs/TECH207194>

OpsCenter の注意事項

この項では、NetBackup の今回のリリースの OpsCenter に関わる操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

- HP-UX 上で OpsCenter 7.5.0.6 のアンインストールに時間がかかることがあります。特定の状況では、HP-UX 上の OpsCenter 7.5.0.6 はアンインストールに数分かかることがあります。アンインストール処理には割り込まないでください。
- [監視 (Monitor)] > [アラートの一覧表示 (Alerts List View)] が特定の状況で表示されません。
[監視 (Monitor)] > [アラートの一覧表示 (Alerts List View)] の下で、アラートを [アラートポリシー (Alert Policy)] または [重大度 (Severity)] でソートすると、既存のアラートがページに表示されません。
この問題を回避するには、ソートから [アラートポリシー (Alert Policy)] または [重大度 (Severity)] の列を削除してください。これで、[監視 (Monitor)] > [アラートの一覧表示 (Alerts List View)] の下に既存のアラートが適切に表示されます。
ソートから列を削除するには、次の手順を実行します。
 - 1 [監視 (Monitor)] > [アラートの一覧表示 (Alerts List View)] に移動し、[表設定の変更 (Change Table Settings)] をクリックします。
 - 2 [表設定 (Table Settings)] ポップアップ画面で、[アラートポリシー (Alert Policy)] と [重大度 (Severity)] の列に適用されるソートを消去します。
 - 対応するチェックボックスを選択します。
 - [ソート (Sort)] ドロップダウンリストの選択を変更します。[上へ (Up)] または [下へ (Down)] オプションはこれらの列に選択しないようにします。
 - 3 [OK] をクリックします。
- マスターサーバービューが選択されている場合、[監視 (Monitor)] > [ジョブの階層表示 (Jobs Hierarchical View)] に子ジョブが正しく表示されません。
次に、この問題の例を示します。

- 1 [監視 (Monitor)] > [ジョブ (Jobs)]の順に移動します。
- 2 [カスタマイズ (Customize)]時間枠を選択します。[相対時間枠 (Relative Time Frame)]を前の5日間に変更します。
- 3 [ビュー (View)]ドロップダウンリストからマスターサーバービューを選択します。選択したマスターサーバーのすべてのジョブが表示されます。
- 4 [階層表示 (Hierarchical View)]を選択します。このビューには子ジョブが正しく表示されません。親ジョブには、他のマスターサーバーに関連付けられた子ジョブが表示されます。

■ **NetBackup** マスターサーバーが仮想マシンの場合、[監視 (Monitor)] > [概要 (Overview)]ページに適切に表示されません。

次に、この問題の例を示します。

- 1 仮想マシンであり、仮想マシンデータを含む **NetBackup** マスターサーバーをインストールします。
- 2 **OpsCenter** サーバーをインストールします。
- 3 **OpsCenter** インターフェースで、ホスト名を表示名として同じマスターサーバーを追加します。
- 4 [監視 (Monitor)] > [概要 (Overview)]ページに移動します。マスターサーバーの表示名ではなく、マスターサーバーがインストールされている仮想マシンの表示名が表示されます。

■ 特定の場合、クライアントの重複エントリが[監視 (Monitor)]および[ビュー (Views)]インターフェースに表示されます。

この問題は次のいずれかの場合で見られます。

- **NetBackup** のマスターサーバーが、1つ以上のポリシーでクライアントとして使われている。
- **NetBackup** マスターサーバーを完全修飾ドメイン名 (FQDN) で参照する **NetBackup** ポリシーがある一方で、短縮名で参照するポリシーもあります。
- マスターサーバーの実際の名前と **OpsCenter** で使われるネットワーク名または表示名が一致しない。

次に、この問題の例を示します。

NetBackup マスターサーバーの実際の名前は `abc.xyz.com` です。**OpsCenter** で使われるネットワーク名または表示名は `xyz` です。

この場合、`abc.xyz.com` が1つ以上の **NetBackup** ポリシーのクライアントとして使われていると、このクライアントの重複エントリは次の **OpsCenter** の画面に表示されません。

- [監視 (Monitor)] > [ホスト (Host)] > [クライアント (Client)]

- [設定 (Settings)] > [ビュー (Views)] > [ノードおよびオブジェクトの管理 (Manage Nodes and Objects)] > [選択したビューに存在しないオブジェクト (Objects not in selected view)]
- OpsCenter を使ってファイルおよびフォルダをリストアするときに問題が発生することがあります。スナップショットバックアップが実行された場合、バックアップタイムラインビューには選択されたファイルまたはフォルダを含むイメージがすべて表示されないことがあります。
- NetBackup 7.5.x.x は NetBackup 7.5 を実行しているシステムにのみインストールできます。ただし、7.1 など前のバージョンから NetBackup 7.5 にアップグレードしている場合は、次のエラーメッセージを表示してアップグレードが失敗する場合があります。

表 'domain_JobArchive' の外部キー 'FK_JOB_REF_MEDIA_SERVER_ARCHIVE' にプライマリー値がありません

このエラーが発生した場合、アップグレード処理を再度試みる前にシマンテック社のテクニカルサポートにお問い合わせください。
- [メディアのバーコード (Media Barcode)] フィールドが選択されている場合、カスタム表形式のレポートにすべてのジョブが表示されないことがあります。この問題が発生した場合は、シマンテック社のテクニカルサポートに連絡してください。
- OpsCenter 7.5.0.5 以降でキャパシティライセンスレポートを実行するには、各マスターサーバーでユーザー名とパスワードが必要となります。7.5.0.5 より前のバージョンの OpsCenter に追加されたすべてのマスターサーバーのレポートを正常に実行するには、さらに他の手順が必要になります。各マスターサーバーのユーザー名およびパスワードクレデンシャルは NetBackup の構成設定で手動で入力する必要があります。クレデンシャルが構成設定に追加されない場合、レポートの実行時にユーザー名およびパスワードエラーが戻ります。
- さらに、キャパシティライセンスを正しく動作させるために、次の TechNote を参照し、指定された EEB をインストールします。

<http://www.symantec.com/docs/TECH148678>
- ポリシービューはリストア形式のジョブには適用されません。ジョブに関連したアラートポリシーを作成するときにポリシービューを選択すると、OpsCenter はリストアジョブのアラートを生成しません。リストアジョブに関連付けられたポリシーがないので、ポリシービューのアラートを発生することはありません。
- OpenStorage アラートポリシーが構成されている場合、OpsCenter は各ボリュームにアラート(電子メール)を生成します。この問題を回避するには、[イベントメッセージに含まれている単語数 (Event message contains word(s))] の選択に提供されているフィールドで、テキストを指定してボリューム形式のアラートをフィルタ処理することができます(たとえば「ボリューム名あり」、「どのボリュームについても保護されていない」、など必要に応じて)。OpsCenter は NTAP

のイベントに[イベントメッセージに含まれている単語数 (Event message contains word(s))]の選択で指定されたテキストが含まれるときのみアラートを生成します。

- OpsCenter のユーザーが削除されると、次のユーザー固有のデータもビュー、レポートスケジュールなどとともに削除されます。
 - ユーザーが作成したすべてのデータコレクタ
 - 作成者が誰かにかかわらず、ユーザーが変更したすべてのデータコレクタこの動作のため、ユーザーを削除したことによりデータ収集が失敗する場合があります。次のシナリオで問題を詳しく説明します。

ユーザー A がデータコレクタ D1 を作成し、NetBackup マスターサーバー M1 からデータを収集します。ユーザー B が D1 を変更します。OpsCenter 管理者がユーザー B を削除します。この結果 D1 も削除されますが、これはユーザー B が D1 を変更したからです。したがって、データ収集は失敗し、ユーザー A は M1 からデータを収集できません。
- 64ビットの Windows では、7.1.0.x または 7.5.0.x に言語パックがインストールされている場合、以降のバージョンへのアップグレードが失敗することがあります。たとえば、OpsCenter 7.5 を 7.5.0.4 にアップグレードし、7.5.0.4 にすべての言語パックをインストールした場合、7.5.0.5 へのアップグレードが失敗することがあります。この問題を回避するには、アップグレード前に手動ですべての言語パックをアンインストールし、アップグレード後にそれらを再インストールします。
- OpsCenter で収集されたイメージの場合は、データが不足しているため、単純化されたファイルリストア (SFR) 時系列ビューでデータ形式が unknown と表示されます。
- マスターサーバーからの OpsCenter のジョブ収集は、ポート 1556 番が NetBackup と OpsCenter の両側で双方向に開かれていなければ失敗する可能性があります。

NetBackup Search の注意事項

この項では、NetBackup の今回のリリースの Search に関わる操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

Search の NetBackup 7.5.0.x へのアップグレードについて

NetBackup Search をお使いの場合、NetBackup 7.5 から NetBackup 7.5.0.x メンテナンスリリース(たとえば、バージョン 7.5.0.6)にアップグレードするには特別な手順に従う必要があります。この手順は NetBackup 7.5 のメンテナンスリリース間のアップグレード(たとえば、バージョン 7.5.0.3 からバージョン 7.5.0.6 へのアップグレード)にも適用されます。新しいリリースにアップグレードする前に、すべての NetBackup Search のユーザーがこの手順を参照することをお勧めします。

NetBackup Search のアップグレード手順は、次のリンクにあるシマンテック社のサポート Web サイトにあります。

<http://www.symantec.com/docs/TECH207010>

仮想化の注意事項

この項では、NetBackup の今回のリリースの仮想化に関わる操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

- VMware ポリシーの[詳細属性 (Advanced Attributes)]ダイアログボックスには[仮想ディスクの選択 (Virtual disk selection)]という設定があり、これにはブートディスクまたはデータディスクをバックアップから除外するオプションがあります。7.5.0.6 より前のバージョンでいずれかのディスクのエクスクルーードオプションを使うには、NetBackup は完全なスワップファイルがブートディスクに存在することを必須要件としていました。スワップファイルは Windows の pagefile.sys ファイル、または Linux のスワップパーティションです。この制限は 7.5.0.6 で解除されました。いずれのディスクのエクスクルーードオプションの場合でも、スワップファイルがブートディスクに存在する必要がなくなりました。

Hyper-V の注意事項

- NetBackup for Hyper-V では仮想ディスクファイル(.vhd)の名前にアンド記号(&)がサポートされていません。仮想マシンの vhd ファイルの名前に「&」が含まれていた場合、バックアップは状態コード 6 で失敗します。
この問題を回避するには、「&」を .vhd ファイルの名前から削除し、バックアップを再実行します。
- NetBackup 7.5.0.6 以降は、バックアップしたときに仮想マシンが Hyper-V 2008 R2 サーバーに存在しても Hyper-V 2012 に仮想マシンをリストアできます。ただし、リストアされた仮想マシンに接続するには、正しい仮想スイッチの選択によって仮想マシンのネットワークアダプタを修正する必要がある場合があります。
この問題は Hyper-V 2012 の仮想マシンの XML 構成への変更が原因で発生します。

メモ: 仮想マシンを Hyper-V 2008 R2 にリストアすると、この問題は発生しません。

- Red Hat Enterprise Linux 6.4 仮想マシンをホスト名によって Hyper-V のポリシーにクライアントとして追加できないという問題が存在します。この問題を解決するには、次で説明されている必要な OS の更新をすべてインストールする必要があります。Red Hat のバグ 883306 (https://bugzilla.redhat.com/show_bug.cgi?id=883306)。この問題は、VM の表示名または UUID を使用して、ポリシーに VM をクライアントとして追加することによって回避することもできます。

- **Windows 2012 Hyper-V** に対する **NetBackup** サポートの制限事項のリストを次に示します。
 - 耐性があるファイルシステム (**ReFS**) のバックアップとリストアはサポートされません。
 - **Block Level Incremental** バックアップはサポートされません。
 - **Hyper-V** バックアップからのファイルレベルのリカバリは次の場合にはサポートされません。

- ファイルが耐性のあるファイルシステム (**ReFS**) ボリュームがら作成された。または
- 仮想マシンは **VHDX** ファイルで構成されている。

ファイルが **NTFS** ボリュームで作成され、仮想マシンが **VHD** ファイルで構成されている場合は、ファイルレベルのリカバリは引き続きサポートされます。

- クラスタ共有ボリューム (**CSV**) 内の仮想マシンのバックアップはサポートされます。**Hyper-V Server 2008 R2** では、**CSV** にシリアル化されたバックアップを必要とする制限事項があります。**Hyper-V Server 2012** では、**CSV** はその制限事項なしで並行バックアップをサポートします。その結果、**NetBackup** の **Hyper-V** ポリシーでの **CSV** のタイムアウト設定は **Hyper-V Server 2008 R2** の配備でのみ使われます。

- **[VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)]** のポリシーオプションは **.vhdx** ファイルである仮想マシンにはサポートされません。仮想ディスクが **.vhdx** 形式の場合、仮想マシン全体はリストアできますが、個々のファイルはリストアできません。

個々のファイルのリストアを試みても、リストアは失敗します。**NetBackup 7.5.0.6** マスターサーバーの場合、アクティビティ 모니터の **[ジョブの詳細]** ダイアログボックスには次のメッセージが表示されます。

```
This VM contains VHDX virtual disk(s). Single file restore will not be possible for such disks. You will be able to perform a full restore.
```

NetBackup 7.5.0.6 以前のマスターサーバーの場合、**[ジョブの詳細]** ダイアログボックスには次のようなメッセージが表示されます。

```
Warning bpbrm(pid=9128) from client <hostname>: WRN - VxUL id = 34.
```

- **Windows Server 2012** では、クラスタノードは同じクラスタ共有ボリュームを同時にバックアップできます。そのため、クラスタが **Windows Server 2012** 上にある場合、ポリシーの **[Hyper-V]** タブにある **[クラスタ共有ボリュームのタイムアウト (Cluster shared volumes timeout)]** オプションは使われません。

End-of-life のお知らせ

この章では以下の項目について説明しています。

- [これからの NetBackup End-of-Life についてのお知らせ](#)

これからの NetBackup End-of-Life についてのお知らせ

シマンテック社は多種多様なプラットフォーム、オペレーティングシステム、データベース、アプリケーション、ハードウェアに対し、可能なかぎり優れたデータ保護を提供することに取り組んでおります。シマンテック社は、今後もこれらに対する **NetBackup** のサポートを見直してまいります。これにより、製品の既存のバージョンの保守と、以下についての新しいサポートの導入とを適切なバランスで行っていくことができます。

- **General Availability** リリース
- 新しいソフトウェアおよびハードウェアの最新バージョン
- 新しい **NetBackup** の機能

シマンテック社が新しい機能、プラットフォーム、アプリケーションのサポートを絶え間なく追加していく一方で、**NetBackup** のサポートの中には改善、置換、削除が必要なものもあります。これらのサポート処理は、古い、またはあまり使われない機能に影響することがあります。影響を受ける機能には、ソフトウェア、OS、データベース、アプリケーション、ハードウェア、サードパーティ製品との統合に関するサポートが含まれることがあります。また、場合によっては製造元によるサポートが終了しているか、サポート期間終了間際の製品が含まれる場合もあります。

シマンテック社は **NetBackup** のさまざまな機能のサポートに変更があった場合でもお客様に支障のないように詳細な通知を提供してサポートいたします。**NetBackup** の次のリリースでサポートされない古い製品機能、ハードウェア、OS、サードパーティ製のソフトウェア製品は、リスト化していく予定です。可能であれば、メジャーリリースの前に最低6カ月で可能なかぎり早くこれらのサポートリストを利用できるようにします。

このサポート情報の多くは、NetBackup Symantec Operations Readiness Tools (SORT) ホームページのウィジェットの NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans) で利用可能です。ウィジェットには指定のリリースでサポートされないプラットフォーム、データベース、アプリケーションのリストも含まれています。SORT には次の Web ページでアクセスできます。

<https://sort.symantec.com/netbackup>

SORT には、NetBackup ライセンス対象ソフトウェアに関する EOL (End of Life) および EOSL (End of Support Life) 情報をユーザーに提供するリソースもあります。この情報を表示するには、<https://sort.symantec.com/netbackup> に移動し、[Support] > [Related Links] の順に移動します。[End of Assisted Support information] へのリンクをクリックします。また、次の直接リンクへ進むこともできます：

<https://sort.symantec.com/eosl>。

NetBackup と互換性があるものについての他の情報は [NetBackup Master Compatibility List] でリストされているさまざまな互換性リストで見つけることができます。

<http://www.symantec.com/docs/TECH59978>

NetBackup 7.5.0.6 のリリース内容について

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のリリース内容について](#)
- [リリース内容の表記規則について](#)
- [NetBackup 7.5.0.6 のリリース内容](#)
- [NetBackup 7.5.0.6 Emergency Engineering Binary \(EEB\) のリスト](#)

NetBackup のリリース内容について

このリリースで、NetBackup のいくつかの既知の問題に修正が加えられました。これらの問題の多くは Titan または Salesforce.com のケースの形で文書化されたユーザー固有の問題に関係しています。このリリースで加えられた修正の多くは個別のエンジニアリングバイナリおよびエンジニアリングバンドル (EEB) として利用可能です。これらの EEB は、NetBackup の前のバージョンで特定の顧客の問題に対処するために作成されました。

次の項には、NetBackup のこのリリースで解決された既知の問題を文書化する Etrack および EEB のリストが含まれています。

リリース内容の表記規則について

次に、以下の項で使用される表記規則について説明します。リリース内容に関するサブセクションに表示されている各項目は、今回のリリースに含まれる機能、拡張機能、または修正された問題を示しています。

- Etrack インシデント

このリリースを対象にする Etrack 番号に注意します。

- 関連プライマリ Etrack
インシデント階層にある追加の Etrack 番号。
- 関連付けられたサービス要求 Etrack
テクニカルサポートのサービス要求に関連付けられた Etrack。
- 説明
このリリースで修正された特定の問題を、追加の注意事項や回避策とともに記述します。回避策はパッチを適用する代わりに使用できます。ただし、最新の利用可能なパッチを適用することを推奨します。
- **説明または**Etrack 番号
このリリースで解決された重大な問題、または潜在的にデータ損失の原因となりうる問題を記述します。このような問題の説明は、特に注意してお読みください。場合によっては、Tech Alert のリンクが利用できます。

現在のリリース内容の Etrack について

この項でリストされている Etrack、または他のサービス要求 Etrack の詳細については、Symantec Operations Readiness Tools (SORT) を使うことを推奨します。SORT にアクセスするには、次の Web ページに移動します。

<http://sort.symantec.com/netbackup>

NetBackup 7.5.0.6 のリリース内容

この項では、修正済みで NetBackup のこのリリースに含まれる一連の既知の問題について説明します。

Etrack インシデント: 2985639

- 関連プライマリ Etrack: N/A
- 関連サービス要求 Etrack: N/A
- 説明:
バックアップのファイルハンドルの `ulimit` を設定して `bpbkar` プログラムをアーカイブできるようにオプションが追加されました。

Etrack インシデント: 3019711

- 関連プライマリ Etrack: N/A
- 関連サービス要求 Etrack: N/A
- 説明:
`bpulist` が終了タイムスタンプで時間のフィールド指定なしに実行された場合、メモリの初期化されていない領域をスキャンし、その結果不正な時刻値になります。

Etrack インシデント: 3048490

- 関連プライマリ Etrack: N/A
- 関連サービス要求 Etrack: N/A
- 説明:

NetBackup Client Service または SQL Server の sysadmin のセキュリティサーバールールに十分な権限がない場合、Microsoft SQL のバックアップジョブは失敗しましたが、エラーコードを返す代わりに状態コード 0 で完了しました。

Etrack インシデント: 3082108

- 関連プライマリ Etrack: 3082078
- 関連サービス要求 Etrack: 3080554
- 説明:

ストレージライフサイクルポリシー (SLP) 定義の更新中にアップグレードが中断した場合、アップグレードの後続の再試行が失敗しました。

Etrack インシデント: 3084896

- 関連プライマリ Etrack: 3065608
- 関連サービス要求 Etrack: 3065565
- 説明:

ストレージ、ポリシー、またはクライアントのパス名が 259 文字を超えた場合、バックアップジョブが失敗しました。

Etrack インシデント: 3098591

- 関連プライマリ Etrack: 3086360
- 関連サービス要求 Etrack: 3085841
- 説明:

レポートが「メディア上のイメージ」または「ディスク上のイメージ」で実行された場合、NetBackup 管理コンソールの[暗号化 (Encryption)]列が暗号化済みのバックアップを正しく[はい (yes)]と表示しませんでした。

Etrack インシデント: 3099329

- 関連プライマリ Etrack: 2776572
- 関連サービス要求 Etrack: 2776304
- 説明:

特定のシナリオでは、RBALLOC_KBYTES_THRESHOLD のデフォルト値により NetBackup Job Manager で問題が起きました。デフォルト値がこの問題を軽減するために変更されました。

Etrack インシデント: 3108442

- 関連プライマリ Etrack: 3094585
- 関連サービス要求 Etrack: 3094572
- 説明:
OpsCenter からマスターサーバーを削除しようとするとう失敗しました。

Etrack インシデント: 3121096

- 関連プライマリ Etrack: 3094188
- 関連サービス要求 Etrack: 3094108
- 説明:
bpdbjobs の出力は異なる時刻および日付形式に対応するように変更されました。

Etrack インシデント: 3123533

- 関連プライマリ Etrack: 3121527
- 関連サービス要求 Etrack: 3121317
- 説明:
RESILIENT_NETWORK が有効の場合、UNIX または Linux のクライアントに NetBackup のソフトウェアをプッシュインストールする update_clients コマンドを使えませんでした。

Etrack インシデント: 3125563

- 関連プライマリ Etrack: 3087451
- 関連サービス要求 Etrack: 3086979
- 説明:
固有の権限がある複数のフォルダがある SharePoint 2010 ライブラリのリストアは、結果として正しくない権限設定になりました。

Etrack インシデント: 3131788

- 関連プライマリ Etrack: 3084768
- 関連サービス要求 Etrack: 3084743
- 説明:
EMC Virtual Storage Integrator がインストールされたホストで、bpfis のエラーにより、スナップショットジョブが失敗するか予測していたよりも長い時間がかかりました。

Etrack インシデント: 3133353 と 3133354

- 関連プライマリ Etrack: N/A
- 関連サービス要求 Etrack: N/A
- 説明:

大きい VMware 環境で、NetBackup-Java 管理コンソールがリストアウィザードの VMware のエンティティを常時表示していませんでした。

Etrack インシデント: 3136538

- 関連プライマリ Etrack: 3129526
- 関連サービス要求 Etrack: 3129524
- 説明:
eventEnableDisable 処理のエラーによりアップグレードが失敗しました。

Etrack インシデント: 3146455

- 関連プライマリ Etrack: N/A
- 関連サービス要求 Etrack: N/A
- 説明:
NetBackup Database Manager が削除された参照イメージを見つけた場合 `bpimport -drfile` コマンドが状態コード 232 で失敗しました。

Etrack インシデント: 3163025

- 関連プライマリ Etrack: 3137320
- 関連サービス要求 Etrack: 3137180
- 説明:
特定の構成で、ネットワークドライバの古いバージョンと互換性がないため、Bare Metal Restore (BMR) のリカバリがネットワークの初期化エラーで失敗しました。

NetBackup 7.5.0.6 Emergency Engineering Binary (EEB) のリスト

次の表は、識別済み、解決済みで、ユーザーが EEB の形式で利用可能な既知の問題を示しています。NetBackup 7.5.0.6 は、各 EEB で取り上げられた問題を解決します。この文書が掲載された後に追加の EEB がリリースされている場合もあります。この項でリストされている Etrack、または他のサービス要求 Etrack の詳細については、Symantec Operations Readiness Tools (SORT) を使うことを推奨します。SORT にアクセスするには、次の Web ページに移動します。

<https://sort.symantec.com/netbackup>

あるいは、本書に目的の EEB が記載されていない場合、またはこの表の問題に関する追加情報が必要な場合は、シマンテック社のサポート担当者に連絡してください。

表 A-1 NetBackup 7.5.0.6 EEB のリスト

Etrack 番号	EEB の説明
3114410	NetBackup Vault リカバリレポートには、カタログのディザスタリカバリの手順は含まれておらず、Vault summary.log ファイルに想定しない EOF エラーが発生します。
2864973	Hyper-V バックアップは状態 156 および状態 1542 で失敗します。
2878491	Hyper-V バックアップは状態 156 および状態 1542 で失敗します。
3002231	bpfis の処理は無効なスナップショットにより、Hyper-V バックアップ中にハングアップします。
3161604	特定の条件下では、Windows での 7.5.0.5 パッチのインストール中に VxMS バイナリが削除されるため、インストール後に FlashBackup の問題が発生します。
3195197	特定の条件下では、Windows での 7.5.0.5 パッチのインストール中に VxMS バイナリが削除されるため、インストール後に FlashBackup の問題が発生します。
3111591	着信のクライアント接続からの負荷の大きい pdx 依存サービスが終了すると、pbx_exchange サービスは中止し、コアダンプを出力します。
3139464	レジストリエントリは無視されます。
3130147	レジストリエントリは無視されます。
3114741	NetBackup Agent for VMS の問題。
3133752	OpenVMS (Open Virtual Memory System) クライアントのバージョンを 6.5.5 から 7.5 にアップグレードした後、クライアントのプロパティを修正して保存すると、「ファイルの読み込みに失敗しました」というエラーが発生します。
2434059	VERITAS Backup Reporter の問題。
2221000	VERITAS Backup Reporter の問題。
2219170	NetBackup 7.0.1 の TSM のデータ収集に関する問題の累積 EEB バンドルです。
1730575	VERITAS Backup Reporter の問題。
2271300	VERITAS Backup Reporter の問題。
2982810	容量および従来のレポートの正確性を改善します。
2982814	容量および従来のレポートの正確性を改善します。
2982816	容量および従来のレポートの正確性を改善します。
2982811	容量および従来のレポートの正確性を改善します。
2982813	NetBackup 配置ユーティリティ(nbdeployutil)の容量および従来のレポートの正確性を改善します。

Etrack 番号	EEB の説明
2982818	容量および従来のレポートの正確性を改善します。
3024983	容量および従来のレポートの正確性を改善します。
2982812	容量および従来のレポートの正確性を改善します。
2982817	容量および従来のレポートの正確性を改善します。
3123414	NetBackup 配置ユーティリティ(nbdeployutil)の容量および従来のレポートの正確性を改善します。
2982809	容量および従来のレポートの正確性を改善します。
3027562	容量および従来のレポートの正確性を改善します。
2982815	容量および従来のレポートの正確性を改善します。
2982803	NetBackup 配置ユーティリティ(nbdeployutil)の容量および従来のレポートの正確性を改善します。
2982819	容量および従来のレポートの正確性を改善します。
2980240	Solaris SAS-2 ホストバスアダプタ(HBA)は NetBackup では機能しません。
2792286	Solaris iSCSI ホストバスアダプタ(HBA)は NetBackup では機能しません。
3128448	Solaris 上の SAS-2 ドライブ用の SCSI パススルードライバスクリプト。
2871476	Solaris SAS-2 ホストバスアダプタ(HBA)は NetBackup では機能しません。
3051344	自動イメージリストアのターゲットマスターは、7 日未満のカスタムの保持レベルを優先しません。
3093205	ストレージライフサイクルポリシーと自動イメージレプリケーションの性能をサポートし、エラーで割り当てが解除され、凍結されたメディアの問題を解決する EEB バンドル。
3009921	NetBackup 7.5.0.4 以降、期限切れになったメディアは凍結されていても割り当てを解除できるようになりました。NetBackup 7.1 では、凍結されたメディアは割り当てから解除できません。凍結されたメディアの割り当ては解除しないでください。
3193376	Hyper-V バックアップから個別ファイルをリストアしようとするとう失敗します。
2916230	Hyper-V バックアップから個別ファイルをリストアしようとするとう失敗します。
3117236	「nbdevquery - listdv」コマンドは、指定のディスクボリュームに利用可能な、潜在的な空き容量を示していませんでした。
3157844	NetBackup Storage Lifecycle Manager (nbstserv) のリカバリセッション処理を訂正し、変更します。
3160753	Storage Lifecycle Manager サービス (nbstserv) のリカバリセッション処理を訂正し、変更します。

Etrack 番号	EEB の説明
3153058	「状態 10 - 非アクティブ」で停止している数千のストレージライフサイクルポリシー (SLP) イメージに対処するため、ワンタイムスクリプトが作成されました。このスクリプトは、他のどのリリース手段にも含まれない。
3077904	NetBackup Java ユーザーインターフェースの問題。
3158926	NetBackup Java ユーザーインターフェースの問題。
3031070	NetBackup 7.5.x では、Lotus のリストアは非常に時間がかかります。
3034651	NetBackup 7.5.x では、Lotus のリストアは非常に時間がかかります。
2966680	bnx2x アダプタ (Broadcom NetXtreme II 5771x/578xx 10/20 ギガビット) 搭載 Linux クライアントをリカバリできません。
3142588	NetBackup OpsCenter の問題。
3068763	[概略] タブの「ポリシー形式ごとの容量」セクションから Vmware および Hyper-V のポリシー形式が抜けています。
3055370	Microsoft SharePoint ノードは列挙中に表示されません。
3178727	バックアップ実行中、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースに SharePoint リソースが表示されません。
2970130	[バックアップ]、[アーカイブ]、および[リストア]インターフェースでのイメージの参照に時間がかかります。インターフェースがイメージを読み込むのに長い時間がかかります。
3019161	NetBackup 管理コンソールを使用して、特定のメディアサーバーに書き込まれたバックアップイメージを参照する際に時間がかかりすぎます。
3019163	NetBackup Java ユーザーインターフェースの問題。
2918691	起動時、SQL Agent インターフェースはレジストリから ODBC (Open Database Conectivity) 接続文字列を作成するための SQL Server のプロパティを取得できません。
2924638	起動時、SQL Agent インターフェースはレジストリから ODBC (Open Database Conectivity) 接続文字列を作成するための SQL Server のプロパティを取得できません。
3090552	Dbbackup.exe はレジストリから ODBC (Open Database Conectivity) 接続文字列を作成するための SQL Server のプロパティを取得できません。
3042624	cloudstore.conf ファイルを読み込んだ後、NetBackup Cloud Storage Service Container サービス (nbcssc) はルートディレクトリ下にログファイルを作成します。
3147934	cloudstore.conf ファイルを読み込んだ後、NetBackup Cloud Storage Service Container サービス (nbcssc) はルートディレクトリ下にログファイルを作成します。

Etrack 番号	EEB の説明
3105316	RedHat 6.X クライアントでは、Bare Metal Restore は次のエラーで検出フェーズに入ります:「このシステムのディスクはリカバリの最小要件を満たしていません」。
3155722	NetBackup Service Layer の問題。
3180682	NetBackup Java ユーザーインターフェースの問題。
2946053	「fix_encrypt」オプションを使用したインポートのフェーズ 2 は状態コード 13 で tar に失敗します。
3056622	NetBackup OpsCenter アラートの問題。
3080574	NetBackup OpsCenter アラートの問題。
3014874	NetBackup OpsCenter のデータ収集の問題。
2977914	NetBackup OpsCenter のデータ収集の問題。
3189770	NetBackup Java ユーザーインターフェースの問題。
3127522	カタログから以前のスナップショットが削除されていない場合、以降のスナップショットの作成は次のエラーで失敗します。「pfi_find_active: 利用可能なスナップショットミラーが見つかりません。」
2961697	VMware クライアントの多重バックアップは、「VM_Type - 2」の代わりに「VM_Type 0」としてインポートされます。
3034022	NetBackup Windows ユーザーインターフェースの問題。
2916262	bpvmutil 処理は VMware バックアップ中にクラッシュします。
3163522	bpvmutil 処理はクラッシュします。
3155662	NetBackup システム管理 (ポリシー、スケジュールなど) の問題。
2966787	NetBackup システム管理 (ポリシー、スケジュールなど) の問題。
3051191	NetBackup システム管理 (ポリシー、スケジュールなど) の問題。
3058454	NetBackup システム管理 (ポリシー、スケジュールなど) の問題。
3078609	NetBackup システム管理 (ポリシー、スケジュールなど) の問題。
3155883	同じホットスペアディスクが 2 つの異なる ZFS プールに割り当てられたとき、「ZFS ファイルシステムの作成に失敗しました」エラーが発生してリストアに失敗します。
3005312	複数のパスを持つ、ネットワークデータ管理プロトコルのバックアップイメージからリストアできません。このバックアップイメージは EMC DL4200 埋め込みメディアサーバーによって書き込まれた複製コピーです。

Etrack 番号	EEB の説明
**3208619	多重化 (MPX) メディアの有効期限が間違っ て早い日付に変更されている可能性 があります。 http://www.symantec.com/docs/TECH205819
**3191336	多重化 (MPX) メディアの有効期限が間違っ て早い日付に変更されている可能性 があります。 http://www.symantec.com/docs/TECH205819
**3185297	多重化 (MPX) メディアの有効期限が間違っ て早い日付に変更されている可能性 があります。 http://www.symantec.com/docs/TECH205819
**3185299	多重化 (MPX) メディアの有効期限が間違っ て早い日付に変更されている可能性 があります。 http://www.symantec.com/docs/TECH205819
**3142128	多重化 (MPX) メディアの有効期限が間違っ て早い日付に変更されている可能性 があります。 http://www.symantec.com/docs/TECH205819
3106719	アクティビティモニターはバックアップとリストアの一貫しない結果を報告します。アクティビティモニターは完成率 100% 未満であることを示していますが、[状態の詳細]タブには、プロセスが状態コード 0 で終了したと表示されています。ジョブ状態はアクティブのままとなります。
3108642	増分バックアップは True Image Restore (TIR) 削除の対象としてマークされていません。
2982308	仮想マシンのディスク (vmdk) のビットマップファイルは VMware バックアップのキャンセル後に /tmp から削除されません。
3106690	VMware のバックアップジョブがキャンセルされたか、または失敗すると、一時的な VMDK ファイルは /tmp に残されたままになります。
2966284	NBAC を有効にした場合、一部ジョブは断続的に失敗し、アクティビティモニターに JobID が表示されません。NetBackup Policy Execution Manager (nbpem) のログは、NetBackup Job Manager (nbjm) との通信の問題により、JobID が失われたことを示しています。
3101514	ネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) イメージのリストアまたは複製は、次のエラーメッセージで失敗します。「create_ndmp_frag_info: バックアップ画像 (n) xxx のサイズは変更されています。」または「create_ndmp_frag_info: 内部エラー - カウント不一致エラー。」
2985395	分散ファイルシステムレプリケーション (DSFR) バックアップの間、bpbkar32.exe によってアプリケーションエラーが発生する可能性があります。
3133654	VMware バックアップ中、スナップショットは 10 回試行した後に状態コード 3014 で失敗する場合があります。
3079971	VMware バックアップ中、スナップショットは 10 回試行した後に状態コード 3014 で失敗する場合があります。
3192221	スナップショットの作成に失敗すると、bpfis は仮想マシンをロック解除するための VixDiskLib_EndAccess() を呼び出しません。

Etrack 番号	EEB の説明
3065140	NetBackup Bare Metal Restore の問題。
3084976	終了した各セッションのトランザクションを終了し、スナップショット分離レベルを変更します。
3119197	ホットカタログバックアップを実行するとき、「bpnbaz -q -showbackuplist」コマンドが失敗します。
3135460	NetBackup の通信プロトコルの問題。
3001723	NetBackup OpsCenter カスタムレポートの問題。
2961274	イメージのクリーンアップは、「APP_CLUSTER」のノード上に常駐するバックアップイメージをクリーンアップできません。
3123528	内部表の増加により、Sybase がハングアップします。
3019944	NetBackup Bare Metal Restore の問題。
2690308	テープの終わりが検出された後、ネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) のリストアは状態コード 27 で失敗し、NetBackup テープマネージャのコアダンプの問題が発生します。
3024221	NetBackup 6.5.4 以前を使用して作成されたバックアップのネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) リストアは、状態コード 27 と NetBackup テープマネージャ (bptm) のコアダンプ問題が発生して失敗します。
2886224	ネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) リストアの間、場合によってはテープの終わりが検出された後に NetBackup テープマネージャ (bptm) のコアダンプの問題が発生することがあります。
3209796	ネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) のリストアは状態コード 27 で失敗し、テープの終わりが検出された後 NetBackup テープマネージャのコアダンプの問題が発生します。
3042170	VMware バックアップの表示名の最後にドット(.)が付くと、すべての「.f」ファイルが削除され、バックアップからのリストアが不可能になります。
3098858	VMware のアプリケーション状態キャプチャイメージは、親イメージよりも先に期限切れになります。
2925091	「¥Yyy」を含むクレデンシャルは、bpVMutil では特殊文字 (16 進等価数) に変換されるため、認証に失敗します。
3020859	バックアップしたファイル名に改行が含まれている場合、bpverify コマンドが UNIX メディアサーバーのエラーを報告します。
2946684	バックアップしたファイル名に改行が含まれている場合、bpverify コマンドが UNIX メディアサーバーのエラーを報告します。
3026290	仮想マシンの名前にスペースが含まれている場合、ブロックレベルバックアップ (BLIB) の増分ジョブは完全バックアップを実施します。
3144618	データベース名にコロン(:)が含まれている場合、Exchange バックアップの GRT フェーズは失敗します。

Etrack 番号	EEB の説明
2898214	NetBackup OpsCenter アラートの問題。
3093057	NetBackup OpsCenter アラートの問題。
2952408	NetBackup OpsCenter の問題。
2795138	カタログ内の孤立した .po ファイルは偽の「fakeFPCheck」メッセージを生成します。
3108240	10 以上のボリュームがあるシステムでボリュームが必要となった場合、VMware Exchange GRT の参照は失敗します。
3017201	Solaris クライアントの Bare Metal Restore (BMR) Dissimilar Disk Restore を実行しようとしたとき、マッピングユーティリティはシステムディスクをマッピングできません。
3143716	非システム VxVM ディスクを搭載した Linux クライアントは、システム専用リストアを使用したりカバリを実行できません。
3076793	非システム VxVM ディスクを搭載した Linux クライアントは、システム専用リストアを使用したりカバリを実行できません。
3074804	NetBackup OpsCenter アラートの問題。
2797723	Sybase 用の tmp ファイルは大きくなりすぎます。
3195573	NetBackup のデータベースからメディアサーバーおよびすべての関連データレコードを削除するワンタイムスクリプトが作成されました。このスクリプトは、他のどのリリース手段にも含まれない。
3051747	NetBackup OpsCenter カスタムレポートの問題。
3184319	NetBackup システム管理 (ポリシー、スケジュールなど) の問題。
3142835	FIREWALL_IN 構成エントリを要求せず、静的なネットワークアドレス変換 (NAT) ファイアウォールを通してコモンオブジェクトリクエストブローカーアーキテクチャ (CORBA) 通信を許可します。
3142846	FIREWALL_IN 構成エントリを要求せず、静的なネットワークアドレス変換 (NAT) ファイアウォールを通してコモンオブジェクトリクエストブローカーアーキテクチャ (CORBA) 通信を許可します。
3093882	NetBackup キーマネージメントシステム (NBKMS) を有効にして書き込んだイメージをリストアしようとすると、状態コード 85 で失敗する場合があります。
3027395	NetBackup Bare Metal Restore の問題。
3045792	exclude_list ファイル内のエントリ経由で 1 つ以上のマウントポイントが除外されている場合、bpmount ユーティリティは UNIX サーバー上のマウントポイントエントリの重複を報告します。
3073850	Microsoft Exchange 添付ファイルテーブルに標準名がない場合、添付ファイルが空のメッセージの GRT リストアは失敗する場合があります。たとえば、ローカル設定のためにデータベーススキーマが変更された場合、この問題が発生する可能性があります。

Etrack 番号	EEB の説明
3195135	個別リカバリテクノロジー (GRT) のリストアは、添付ファイルがあるメッセージの、Enterprise Vault (EV) によってアーカイブされたスタブを正しくリストアできません。
3132521	クラスタノード名がすべて大文字の「CLUSTER」で開始する場合、ユーザーは Hyper-V 仮想マシンを参照できません。
2909871	AUTO_UPDATE_ROBOT タッチファイルが設定されている場合、テープはロボットにインポートされず、自動的にインベントリを実行しません。
2957733	ロボットメールスロットの変更が認識されない AUTO_UPDATE_ROBOT の問題。
3138156	NetBackup ロボットデーモンがユニットアテンションを送信せず、AUTO_UPDATE_ROBOT が失敗する場合があります。
3055194	汎用リストアの「リストアの構成を選択」ドロップダウンリストの固定長が原因で、ユーザーは長いクライアント名を表示できず、リストアを続行するための目的の構成を選択できません。
3039453	現在の NetBackup コマンドラインインターフェースの機能は、VIP ポリシーの変更に制限されています。コマンドラインインターフェースに新しいオプションが 2 つ追加されました。
3125103	現在のコマンドラインインターフェース (CLI) の機能は、VIP ポリシーの変更に制限されています。CLI に新しいオプションが 2 つ追加されました。
3191915	NetBackup Java ユーザーインターフェースの問題。
3231114	NetBackup Java ユーザーインターフェースの問題。
3047514	クライアントまたはポリシー名の大文字/小文字が変更された場合に、PureDisk 重複排除オプション (PDDO) ディスクプールからイメージを読み込もうとすると問題が発生します。この問題はバックアップ、リストアおよび複製に影響する可能性があります。
3026132	クライアントまたはポリシー名の大文字/小文字が変更された場合に、PureDisk 重複排除オプション (PDDO) ディスクプールからイメージを読み込もうとすると問題が発生します。この問題はバックアップ、リストアおよび複製に影響する可能性があります。
3214313	失敗した構成の試みからメディアサーバー重複排除プール (MSDP) ストレージサーバーを削除するため、ワンタイムスクリプトが作成されました。このスクリプトは、他のどのリリース手段にも含まれない。
3055227	nbemcmd -deletehost コマンドを使用して削除できないネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) サーバーを削除するため、ワンタイムスクリプトが作成されました。このスクリプトは、他のどのリリース手段にも含まれない。
3104818	nbemcmd -deletehost で削除できず、代わりにエラー (最初にディスクオブジェクトを削除してください) が出て失敗してしまうマスターサーバー上で MSDP セットアップを削除するため、ワンタイムスクリプトが作成されました。このスクリプトは、他のどのリリース手段にも含まれない。

Etrack 番号	EEB の説明
3008786	イメージクリーンアップでボリュームを見つけることができなかつたために状態 83 で終了してしまう、自動イメージレプリケーションのイメージ用にワнтаイムスクリプトが作成されました。このスクリプトは、他のどのリリース手段にも含まれない。
3095239	NetBackup Bare Metal Restore の問題。
3156374	NetBackup システム管理 (ポリシー、スケジュールなど) の問題。
2996317	NetBackup システム管理 (ポリシー、スケジュールなど) の問題。
2842657	Linux では、拡張パーティションがある場合、「すべてのマッピングを解除してからマッピング」操作を行うとパーティションが W95 Ext'd (LBA) に設定されます。
3082881	クライアントを「USE_VXSS = PROHIBITED」に設定した場合、メディアサーバーを「USE_VXSS = AUTOMATIC」および「VXSS_NETWORK = media_server_name REQUIRED」に設定するとクライアントダイレクトバックアップが失敗します。
3126195	NetBackup の通信プロトコルの問題。
3118240	複数ストリームまたはボリュームスナップショットサービス (VSS) バックアップジョブの間、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) マシン上で実行する Amazon で仮想化された Windows ホストに Bpffis.exe コアダンプが発生します。
3044188	ストレージライフサイクルポリシーで作成されたテープに保存された、カタログバックアップのコピー 2 からのリカバリができません。
3147730	bpvmutil.exe アプリケーションで断続的にエラーが発生します。
**3204762	NetBackup システム管理 (ポリシー、スケジュールなど) の問題。 http://www.symantec.com/docs/TECH206911
3050260	親 bpffis プロセスが終了した子プロセスの状態を読み取らない場合、機能しない bpffis プロセスが作成されます。
2867684	NetBackup Java ユーザーインターフェースの問題。
3156125	NetBackup Java ユーザーインターフェースの問題。
3079370	JFSlog LV を持たない VG を使用した AIX クライアント構成で PTR または DDR を実行すると、「ボリュームグループ (vgName) で JFS ログが見つかりません」および「JFS 論理ボリュームを作成するにはボリュームグループ (vgName) 内に JFS ログが存在する必要があります」というエラーメッセージが表示されます。
3106076	スパーズファイルを含むイメージをインポートすると、間違ったサイズ情報が表示される可能性があります。
3106104	スパーズファイルを含むイメージをインポートすると、間違ったサイズ情報が表示される可能性があります。

Etrack 番号	EEB の説明
3073489	スペースファイルを含むイメージをインポートすると、間違ったサイズ情報が表示される可能性があります。
3154497	NetBackup Java ユーザーインターフェースの問題。
3028881	データベースに波カッコが含まれている場合、リストアが失敗する場合があります。
3028468	Windows 版 NetBackup 管理コンソール、NetBackup アクセス制御および VxSS を使用して、ある NetBackup ドメインを別のドメインへ切り替えることができません。
2970741	SharePoint のクロスファームによってリダイレクトされたリストアが失敗します。
2754057	完全修飾ドメイン名を使用すると、Exchange のリストアは状態コード 37 で失敗します。問題は、完全修飾ドメイン名が 2 回付けられる、バックアップ中の bpbkar および bpfis プロセスログ内に現れる場合があります。
3150274	NetBackup Java ユーザーインターフェースの問題。
3131418	VMware のバックアップは状態コード 41 で失敗します。ログはプロセスが関数 IsSystemBootedUsingEFIFirmware でハングアップすることを示します。
3011949	NetBackup Enterprise Media Manager データベースは ZFS ファイルシステムで問題に遭遇します。
3150238	マスターサーバー上のパフォーマンスの問題の組み合わせによって、リソース要求の処理中にメディアサーバー名を返すことができません。このエラーは再試行できるエラーですが、不具合によって再試行が不可能となります。
2936080	NetBackup Windows ユーザーインターフェースの問題。
2980571	NetBackup Bare Metal Restore の問題。
2991262	NetBackup OpsCenter のデータ収集の問題。
2755281	NetBackup OpsCenter のデータ収集の問題。
3058395	NetBackup Windows ユーザーインターフェースの問題。
3071572	「エラー:PREP_DISKDATA ファイルへ \$diskLocation を書き込むためのラベル情報が正しくありません」エラーメッセージが表示され、Sun Fire X4270 M2 サーバーでの自己リストアが失敗します。
2996859	個別リカバリテクノロジー (GRT) 参照の間、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースのメールアイテムの修正後タイムスタンプが 5 時間後を示します。
3058293	「.LoNg_VaLuEs.2 への読み取りアクセスが拒否されました」エラーが出て、ext4 ファイルシステムから作成されたデータベースの SAP バックアップがリストアに失敗します。

Etrack 番号	EEB の説明
3095961	一部の仮想マシンで、VMware ポリシーの[データディスクのエクスクルード]オプションが正しく動作しません。
3108661	Windows 2008 仮想マシンで、VMware ポリシーの[データディスクのエクスクルード]オプションの動作に一貫性がありません。
3114977	Windows 2008 仮想マシンで、VMware ポリシーの[データディスクのエクスクルード]オプションの動作に一貫性がありません。
3216828	EXT4 を使用した Linux サーバーの VMware バックアップが、「状態コード 12: db_FLISTsend が失敗しました: ファイルを開けませんでした(12)」で失敗する場合があります。
2931422	さまざまな Red Hat Enterprise Linux サーバーの VMware バックアップがエラー「db_FLISTsend が失敗しました」で失敗します。
3093976	さまざまな Red Hat 仮想マシンサーバーの VMware バックアップがエラー「db_FLISTsend が失敗しました」で失敗します。
3002480	さまざまな Red Hat 仮想マシンサーバーの VMware バックアップがエラー「db_FLISTsend が失敗しました」で失敗します。
2951780	Exchange 2010 データベース可用性グループをバックアップするとき、 bpresolver プロセスの応答に長い時間がかかります。
3016768	バックアップ中、重複排除マネージャ(spad)の根本的なエラー「[_handle_find]カタログがビジー状態です」が発生して、バックアップテープマネージャ(bptm)がタイムアウトします。このエラーはクライアントとポリシーの組み合わせにおける多数のバックアップによって引き起こされます。
3105408	バックアップ中、クライアントおよびポリシーの組み合わせの多数のバックアップによって引き起こされる、 spad の根本的なエラー「[_handle_find]カタログがビジー状態です」が発生して、 NetBackup Tape Manager (bptm) がタイムアウトします。
2987333	バックアップ中、クライアントおよびポリシーの組み合わせの多数のバックアップによって引き起こされる、 spad の根本的なエラー「[_handle_find]カタログがビジー状態です」が発生して、 NetBackup Tape Manager (bptm) がタイムアウトします。
3083558	イメージ検証時、バックアップのサイズの予測には時間がかかります。
3162773	マッピングされた完全な仮想マシンバックアップは、状態コード 0 で完了しましたが、 VxMS ログに「 buildLdmPartitions:pLdm.cp:235 - File Recovery is not possible after backup 」と表示されます。
3123001	NetBackup Service Layer の問題。
3018058	HP-UX IA64 プラットフォームでメモリークの問題が発生したため、 NetBackup Service Layer (nbsl) プロセスは予期せず停止し、終了します。

Etrack 番号	EEB の説明
3024932	ソフトウェアバージョン 2.5.1 の NetBackup アプライアンスでは、VMWare バックアップがエラーコード 62 または 130 で失敗する場合があります。
3097866	OpenSSL のバージョン 0.9.8.y への更新。
2948522	ネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) のテープインポートはエラー 220 で終了します。
3119164	重複したイメージのクリーンアップのイベントによって、インデックスキュー内のバックアップイメージエントリが重複する場合があります。これにより、その後のインデックス要求の処理において問題が発生します。
3006448	NetBackup Enterprise Media Manager (EMM) から返されるエントリが多すぎるため、ディスクステージングストレージユニット (DSSU) のステージングは状態コード 228 で失敗します。
3012205	NetBackup Bare Metal Restore の問題。
3048461	4 GB 以上のコンテナ (.bin ファイル) はパフォーマンスに影響し、コンテナを圧縮できない可能性があります。さらに、コンテナが 4 GB に到達したときにデータが失われたり、破損する可能性があります。
3114155	NetBackup Windows ユーザーインターフェースの問題。
2935511	NetBackup Windows ユーザーインターフェースの問題。
3017765	データベースおよびイメージディレクトリ内にシンボリックリンクがあるクライアントをバックアップする間、NetBackup Database Manager (bpdbm) はイメージキーを取得できません。これにより、バックアップは状態コード 227 で失敗します。
3210601	エイリアス名が実際のクライアントにすでに割り当てられている場合、クライアントエイリアス作成の試みは失敗します。
3048813	エイリアス名が実際のクライアントにすでに割り当てられている場合、クライアントエイリアス作成の試みは失敗します。
3066838	NetBackup Java ユーザーインターフェースの問題。
3113092	NetBackup Java ユーザーインターフェースの問題。
3102190	VMware ゲストに関連付けられた IPv6 アドレスの数が多すぎる場合、制限事項が原因でバックアップが失敗する場合があります。
3012773	P2V 変換を使用した仮想マシンをリストア後再起動できず、「オペレーティングシステムの読み込みエラー」が表示されます。
3026227	一部の Windows クライアントログの拡張子には最後に大文字の「LOG」が付きます。UNIX ログ収集プログラム (bpgetdebuglog) は小文字の「log」拡張子を期待し、これ以外は確認しません。したがって、大文字の「LOG」は見つけることができません。

Etrack 番号	EEB の説明
3092538	VMware ポリシータイプを使用して、重複排除の場所へ、複数テラバイトの大きな VM の増分バックアップを実行したときに問題が発生します。これによって、メモリの負の数に関する pdplugin のエラーが原因で bptm が失敗(コアダンプ)します。
3099258	分散型のファイルシステムレプリケーション (DFSR) データのバックアップ中、bpbkar32.exe でエラーが発生します。
3019537	破損した「.f」ファイルが原因で、NetBackup Database Manager (bpdbm) が多くのメモリを消費します。
3092156	破損したイメージファイルにより、NetBackup Database Manager (bpdbm) 処理が停止するまで CPU とメモリが消費されます。
3117858	クライアント用のイメージを参照しようとする、データベースシステムのエラーコード 220 が発生します。
3163213	NetBackup OpsCenter の問題。
2931017	次のセキュリティ上の脆弱性に対処する PostgreSQL のアップグレード: CVE-2012-3489 および CVE-2012-3488。
3111229	NetBackup OpsCenter の問題。
3217366	VMware バックアップは「IsSystemBootedUsingEFIFirmware()」の呼び出しの間に長い遅延が発生します。これにより、バックアップは状態コード 41 で失敗します。
3189560	Windows クライアントのバックアップは bpbkar の「IsSystemBootedUsingEFIFirmware()」の呼び出しで遅延が発生します。これにより、バックアップジョブは状態コード 41 で失敗します。
3151347	bpVMutil 処理は完全に仮想マシンをリストアしません。3 つのディスクのうち 2 つだけ作成されます。tar32 プロセスが第 3 ディスクヘデータをリストアしようとするとき、コアダンプが発生します。
2962978	NetBackup アクセラレータを有効にすると、シャドウコピーコンポーネント (SCC) のすべてのバックアップは強制的に完全バックアップとなります。SCC パスによる分散ファイルシステムレプリケーション (DFSR) は常に完全バックアップとなります。
3198891	NetBackup アクセラレータを有効にすると、シャドウコピーコンポーネント (SCC) のすべてのバックアップは強制的に完全バックアップとなります。SCC パスによる分散ファイルシステムレプリケーション (DFSR) は常に完全バックアップとなります。
3184662	True Image Restore (TIR) のフラグメントファイルは OpenStorage (OST) ダイレクトコピー中は閉じられません。
3040627	True Image Restore (TIR) フラグメントファイルが閉じられない OpenStorage Technology (OST) ダイレクトコピーの問題。
3047391	True Image Restore (TIR) フラグメントファイルが閉じられない OpenStorage Technology (OST) ダイレクトコピーの問題。

Etrack 番号	EEB の説明
3126218	テープからのネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) リストアジョブは、状態コード 5 で失敗します。bptm ログに、「read_data: 未知の ndmp_task 3、状態 5 で終了します」と表示されます。
2948740	クライアントが以前のレベル (7.5 以前) の場合、スナップショットを使用したストレージライフサイクルポリシーが失敗します。
3184773	NetBackup システム管理 (ポリシー、スケジュールなど) の問題。
2870110	ステージングディスクストレージユニット (DSU) から Exchange GRT バックアップの同時複製を開始すると、いずれかが状態 191 で失敗します。
2754142、バージョン 6	SQL2008R2 サーバー上で SQLINSTANCE \$ALL を使用したバックアップが失敗します。イメージの参照中に MSSQL クラスタセットアップで「データベースイメージを読み取ろうとしてエラーが発生しました」と表示され、マスターデータベースのリストアに失敗します。TRXLOG と差分バックアップを同時に実行すると、TRXLOG バックアップが中止しました。
2792621、バージョン 4	Quantum DXi シリーズからテープへの OpenStorage Technology (OST) DirectCopy 複製ジョブが、第 2 フラグメントで状態 85 で失敗します。非 NDMP イメージの OST DirectCopy 複製の最新ファイルが、特定の調整済バッファサイズ設定で破損することがあります。
2895055、バージョン 1	VSS のスナップショットと 156 のエラーの問題です。
2955469、バージョン 1	Oracle のプロキシコピー VxVM スナップショットバックアップを実行中、bpbkar プロセスがクラッシュします。SLP ベースのオフホストのスナップショットは状態 49 および 43 で失敗します。スナップショットの作成は「pfi_find_active: 利用可能なスナップショットが見つかりません」というエラーで失敗します。
3035621、バージョン 1	スナップショットに依存したバックアップジョブにより、ストレージサーバーの詳細に対する複数の問い合わせが発生します。このタイプの多数のバックアップジョブにより、Disk Service Manager (DSM) へ多くの問い合わせが発生し、それによってすべての DMS スレッドがそのタスクを処理することになる可能性があります。
3042003、バージョン 1	クラスタ、AppCluster および bprd のクレデンシャル要求によって Disk Service Manager の処理能力が限界になる可能性があります。
3050708、バージョン 1	NetBackup Bare Metal Restore の問題。
3069121、バージョン 1	ストレージライフサイクルポリシーおよび自動イメージレプリケーションパフォーマンスのバンドル修正。
3074196、バージョン 1	NetBackup 配置ユーティリティ (nbdeployutil) レポートがエラー「Can't locate utf8.pm」で失敗します。
3097439、バージョン 1	デフォルトの待機タイムアウト時間枠内に SQL エージェントが SQL Server のバックアップタイムスタンプを取得できないため、バックアップが失敗し、Dbbackup.exe はレジストリから SQL Server のプロパティを取得して ODBC 接続文字列を作成することができません。

Etrack 番号	EEB の説明
3105184、バージョン 2、1	52202.5.1 アプライアンスバックアップホストを搭載した Windows 仮想マシンのバックアップが、状態コード 130 で失敗します。
3134022、バージョン 1	NetBackup アプライアンスバージョン 2.5.2 で VMware のバックアップ中、bpbkar プロセスにコアダンプが発生します。
3137664、バージョン 2、1	VMware のバックアップはエラーコード 130 で失敗します。
3137665、バージョン 2、1	bpbkar 処理はエラーコード 130 を返します。
3146364、バージョン 1	NetBackup Agent for Windows Client の問題。
3156212、バージョン 1	NetBackup NDMP の問題。
3156426、バージョン 1	増分バックアップは True Image Restore (TIR) 削除の対象としてマークされていません。
3201791、バージョン 1	NetBackup システム管理 (ポリシー、スケジュールなど) の問題。